

analog FOUR

4 Voice Analog Synthesizer

FULL REFERENCE MANUAL

FCC compliance statement

FCC の適合宣言 このデバイスは FCC 規則の 15 項に準拠しています。操作するためには、次の 2 つの条件が課されます。(1) このデバイス有害な混信を発生しない、(2) このデバイスは望ましくない操作を引き起こす混信を含め、受信混信を受け入 れる必要があります。

注記 : この機器はテスト済みで、FCC 規則のパート 15 クラス B デジタル デバイスの制限に準拠します。これらの制限は、住宅地環境での有害な混信に対する、妥当な保護を提供するために設計されています。この装置は無線周 波数のエネルギーを生成、使用、放射することができ、指示に従って設置して使用しなければ、無線通信に有害な 混信を発生します。ただし、特定の設置において干渉が発生しない保証はありません。この装置がラジオやテレビの 受信に有害な混信を起こすかは機器を入り切りすることによって判定できますが、混信を解決するために次の 1 つ 以上の措置を勧めします。

- 受信アンテナの向きを変えるか位置を変える。
- 機器と受信機の間の距離を離します。
- 機器を受信機か?接続されている回路とは異なる回路のコンセントに接続します。
- 代理店または経験豊富なラジオ / テレビ技術者に相談します。

European Union regulation compliance statement

This product has been tested to comply with the Low Voltage Directive 2006/95/EC and the Electromagnetic Compatibility Directive 2004/108/EC.

This symbol indicates that your product must be disposed of properly according to local laws and regulations.

付属のスイッチ モード電源は、CEC レベル V 準拠です。

安全上のご注意

この取扱説明書をよくお読みになり、いつでも確認できるように大切に保管してください。

警告：本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。

1. かならずお読みください。
2. 取扱説明書は大切に保管してください。
3. 警告はかならず守ってください。
4. すべての指示に従ってください。
5. 水のかかる場所では使用しないでください。
6. ケースや液晶ディスプレイの表面を、薬品などでクリーニングしないでください。埃やゴミ、指紋などは、柔らかい乾いた布で軽くふき取ってください。汚れが落ちない場合は、水で布を少しだけ湿らせてから、ふき取ってください。
7. 傷や損傷を防ぐため、ディスプレイの近くで尖ったものを使用しないでください。またディスプレイ本体に圧力を加えないようにしてください。
8. 取扱説明書に従って設置してください。本体は安定した場所で使用してください。本体をラックにセットする場合は、4 本のネジでラック固定用の穴に確実に固定してください。
9. 本体を輸送する場合は、メーカー推奨の付属品を使用するか、本体に同梱されていた箱と緩衝材を使用してください。
10. ラジエーター、ヒート・レジスター、ストーブ、その他の発熱機器（アンプを含む）の近くに設置しないでください。
11. 設置スペースを確保し、本体の側面や底面にある換気口を塞がないでください。
12. 本体の電源をオンにしている間は、PL-1 保護カバー（Analog Four の付属品）を本体に被せないでください。
13. 本製品は、単独、およびアンプやヘッドフォン、スピーカーなどと組み合わせて使用しても、永久的聴力損失の原因となりうる大音量を発生させることができます。大音量や不快なレベルの音量で長時間使用しないでください。
14. 電源コードを踏んだり、電源プラグや本体から出ている部分をねじったりしないようにしてください。
15. メーカー指定の外部機器や付属品のみを使用してください。
16. 雷が発生しているとき、長期間使用しないときは、電源をコンセントから抜いてください。
17. 修理をご利用されるときは、必ず資格のある修理担当者にご相談ください。電源コードやプラグが破損したり、装置に液体をこぼしたり、物を落としたり、雨や湿気で濡れたり、正しく動作しなかったり、落下したりした場合など、本製品に損傷がある場合は修理が必要です。

警告

発火や感電、製品破損のリスクを軽減するため、以下の注意事項を守ってください。

- 雨や湿気、水滴、水しぶきのかかる場所、花瓶などの液体の入った物を本機の上に置かないでください。
- 直射日光のあたる場所への設置、室温が 35 度を超えるような環境で使用しないでください。
- メーカー推奨の付属品のみを使用してください。
- 分解しないでください。お客様ご自身で修理したり調整したりできる部品はありません。必要な場合は専門の業者に修理に依頼してください。修理は訓練を受けた修理担当者のみが行うことができます。

ELEKTRON の電源アダプター PSU-3 に関する追加説明

警告

- 付属の電源アダプターは屋内用として開発されております。屋外では使用しないでください。
- 電源アダプターの通気性を確保するため、設置スペースを確保してください。過熱による感電や発火の危険を避けるため、カーテンやその他のもので電源アダプターの通気をふさがないようにしてください。
- 直射日光のあたる場所に設置したり、室温が 40 度を超えるような環境で使用したりしないでください。
- 電源アダプターは、本製品の近くにあるコンセントに接続してください。

電源アダプターがコンセントに接続されている場合、本機はスタンバイ状態となっています。本機の電源を完全に遮断する場合は、コンセントから電源アダプターを抜いてください。

EU では CE 承認された電源コードのみを使用してください。

YEAR WARRANTY

Elektron の機器は購入日から 3 年間の限定保証付きで販売されています。保証サービスが必要な場合、購入日を証明することができる請求書または領収書が必要です。機器が保証期間中に修理が必要な場合、部品や作業費に料金は適用されません。この保証は、Elektron の機器が保証期間中に転売された場合、他の所有者に譲渡が可能です。Elektron のスタイル商品 (T シャツ、ステッカー、ポスター等) に属する商品には、この保証は適用されません。

この保証は以下については適用されません、(a) 次に理由に起因する損傷、破損または故障 : 事故、過失、誤用、乱用、不適切な設置や運用、または当製品の取扱説明書の指示に従っていない、製品の配送 (請求は配送業者への提示が必要です)、Elektron または Elektron 認定修理センター以外の者による修理または修理の試み。(b) 変更されている機器、またはシリアル番号が損傷、修正や削除されている全ての機器。(c) 通常の摩耗や周期的なメンテナンス。(d) 汗、腐食性がある空気や極端な温度や湿度のような他の外部要因による劣化。(e) 電線のサージまたは関連する電気的異常、雷害または不可抗力に起因する損傷。または (f) 不適切な接地、または (該当する場合) 認定 / 未認定の機器の不適切な使用に起因する RFI/EMI(干渉 / ノイズ)。

小売店で購入した機器についての保証サービス手順

保証サービスが必要な場合、小売店のサポートにご連絡ください。それから続きの手順をご案内されます。3 年間の Elektron 限定保証は、お買い上げの販売店が提供する保証に追加されることにご注意ください。

Elektron オンラインショップから購入した機器の保証サービス手順

保証サービスが必要な場合、www.elektron.se で Elektron サポートにお問い合わせください。Elektron が合意しない限り、Elektron の認定修理センターに機器を送ることはできません。保証サービスのために機器を Elektron の認定修理センターに送る必要がある場合、送料はお客様負担になります。保証期間中、Elektron はお客様へ返送の際の送料を負担します。機器が到着時に無反応である、または購入日から 2 週間以内にハードウェ アが誤動作した場合、Elektron は Elektron の認定修理センターへの配送料を負担します。

付録 A：シンセ・トラック・パラメーター

付録 B：FX トラック・パラメーター

付録 C：CV トラック・パラメーター

付録 D: MIDI

INDEX

はじめに

Analog Four をお買い上げいただきありがとうございます。数ある制作機器において高い評価を得続ける Elektron ステップ・シーケンサーを搭載した、デジタル・コントロールによるアナログ・シンセサイザーです。近代的な技術と信頼性の高いサウンドによる革新的なコンビネーションは、これまでにないアナログの可能性を提供します。Analog Four の機能を最大限に活用いただくために、マニュアルをしっかりとお読みいただくことをお勧めします。また Elektron ウェブサイトのチュートリアル・ビデオも是非ご利用ください。チュートリアル・ビデオは Analog Four の基礎をカバーしており、このマニュアルをわかりやすく補足しています。

マニュアルにおける表記について

マニュアルでは、特定の規則に基づき下記のように表記されます。

ボタンはカッコで囲まれ、大文字と太字で表記されます。例えば、メイン・パネル上の "function" というボタンは、**[FUNCTION]** と表記しています。

メニュー名や LEGATO などの特定のメニュー設定、OFF などのパラメーター設定の選択肢は、大文字で表記されます。
例：OSC 1 メニュー、LEGATO、OFF

パラメーター名と設定やアクションを実行する特定のメニュー・オプションは、大文字と太字で表記されます。
例：**VOL**

大文字は、例えば LEGATO のような特定のメニュー設定や OFF などのパラメータ設定の選択肢に使用されています。

Analog Four 画面上に表示されるメッセージは、引用符と大文字で表記されます。
例："BANK A CHOOSE PTN"

ノブに関しては、大文字、太字、斜体で表記されます。例えば、“level” ノブは ***LEVEL*** と表示されます。

record LED のような LED インジケータは、<RECORD> と表記されます。

以下の記号は、マニュアルを通して使用されています：

この記号は、注意しなければならない情報を示しています。

この記号は、Analog Four をより簡単に操作するためのヒントを示しています。

この記号は使用されていませんが、良い耳を意味します。

Analog Four の背景

いくつかの点においては、決してそのスタイルを崩さない。内側に不朽のクオリティを秘め、外観はそれを際立たせる。

人間活動のあらゆる分野の歴史を通し、それは示されています。科学から芸術、建築に文学、写真から演劇と、芸術作品の多様な表現の本質が具現化されています。もちろんこれは、サウンドの領域にも有効です。

サウンドを発生し形成する手段として、アナログ回路には長い歴史があります。20 世紀初頭の作曲の時代から使用され、1960 年代にはウェンディ・カルロスのようなアーティストにより、一般的となり、最近ではハードウェアとソフトウェアの両方でエミュレートされています。その遺産は印象的で、アナログ電子音は現在の音を楽しむための基準ともなりました。当然のように。深さ、豊かさ、少し歪んだその特徴は、私たちに直接語りかける。フランスの詩人ボードレールが記したように、「不規則性、言い換えるならば予想外、感嘆、驚きは、美において必要不可欠かつ特徴でもある。」(Intimate Journals より)。

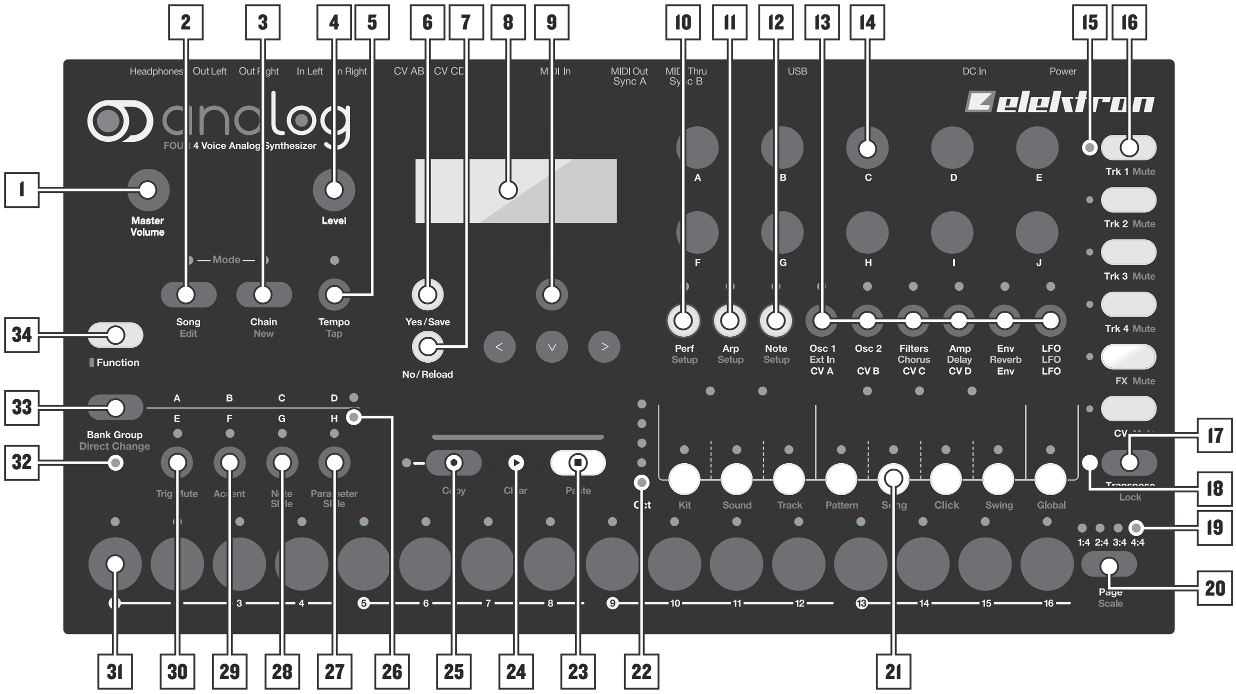
我々Elektron は、多くのアナログ技術を有し、事実、それは我々の血となっています。我々の最初の製品である Sidstation は、ユニークなサウンドの決め手ともなったアナログ・フィルターにより、それを特徴づけました。Analog Four は、我々が原点に戻ることも意味します。しかし、現在の我々は、Machinedrum や Monomachine、Octatrack のような革新的な製品開発から得た知識と経験も持ち合わせています。この 2 つの世界は最高です。デジタル・コントロール技術による正確性と、豊かで温かみのあるアナログ・サウンドを提供することができます。これは、Analog Four が、当社の製品だけに完璧な調和を作り上げるだけではなく、この真似のできないアナログ・サウンドが現代のすべてのスタジオやライブ・セットアップにおいて、理想的で必要とされることを意味しています。我々は、Analog Four を通して、アナログ楽器の素晴らしい歴史に敬意を表し、新たなページを刻みたいと考えます。

真のハードウェアのパワーをお楽しみください。

Elektron チーム

パネル・レイアウトとコネクタ

フロント・パネル



Analog Four フロントパネル

1. MASTER VOLUME は、メイン出力とヘッドフォン出力のボリュームを調整します。
2. [SONG] キー は、SONG モードの設定を行います。
3. [CHAIN] キーは、CHAIN モードの設定を行います。
4. LEVEL は、アクティブなトラックの音量レベルを設定します。また、メニューのスクロールや様々なパラメーター値の設定に使用されます。
5. [TEMPO] キーは、TEMPO メニューを開きます。[FUNCTION] キー + [TEMPO] キー でタップ･テンポを設定することができます。
6. [YES/SAVE] キーは、サブメニューに進む際や選択を確定する際に使用されます。
7. [NO/RELOAD] キーは、アクティブなメニューの終了やオプション選択の解除に使用されます。
8. LCD ウィンドウ。
9. [ARROW] キーは、メニュー移動に使用されます。[UP] [DOWN] [LEFT] [RIGHT] が搭載されています。
10. [PERFORMANCE] キーは、パラメーターのマクロ設定を行います。
11. [ARP] キーは、アルペジエーターの設定を行います。
12. [NOTE] キーは、ノートに関する設定を行います。
13. [PARAMETER] キーは、アクティブなトラックの各パラメーター・ページを切り替えます。上部の白文字は、4 つのシンセ・トラックのページを示しています。グレーの文字は、FX トラックを示し、下部の白文字は、CV トラックのページを示しています。特定のケースにおいて [PARAMETER] キーを二度押しすることで、2 つ目のパラメーター・ページが開きます。
14. DATA ENTRY ノブは、パラメーターの調整に使用されます。
15. <TRACK> の LED は、アクティブなトラックとミュートされたトラックを表示します。
16. [TRACK] キーは、アクティブなトラックを選択します。トラックには、4 つのシンセ・トラック、1 つの FX トラックと1つのCVトラックが用意されています。[FUNCTION]キー + [TRACK] でトラックをミュートします。
17. [TRANSPOSE] キーは、ミニ・キーボードやノート・トリガーのオクターブを移調します。
18. <TRANSPOSE> の LED は、トランスポート・ロック機能のオン／オフを表示します。

19. <Pattern PAGE> の LED は、アクティブなパターン・ページ・スケールとその現在位置を表示します。

20. [PAGE] キーは、アクティブなパターン・ページを選択します。アクティブなパターン・ページはキー上部の 4 つの LED にて表示されます。二次機能として、SCALE メニューへアクセスするために使用されます。

21. [KEYBOARD] キーは、サウンドの再生やノート・トリガーに対するノートの値の設定に使用されます。最初のキーは、[KEYBOARD C1] になります。[KEYBOARD] キーは、二次機能として、例えば KIT や SOUND メニューへのアクセスに使用されます。

22. <OCTAVE> の LED は、[KEYBOARD] キーのオクターブ範囲を表示します。

23. [STOP] キーは、再生を停止します。二次機能として、ペーストを行います。

24. [PLAY] キーは、シーケンサーを再生します。二次機能として、操作のクリアに使用されます。

25. [RECORD] キーは、GRID RECORDING モードのオン／オフを切り替えます。[PLAY] を押し続けると LIVE RECORDING モードが開始されます。二次機能として、コピーを行います。

26. <BANK GROUP> の LED は、アクティブなバンク・グループを表示します。

27. [BANK D/H] キーは、選択したバンク・グループに応じて、Bank D または H のパターンを選択します。二次機能として、PARAMETER SLIDE メニューを開きます。

28. [BANK C/G] キーは、Bank C または G のパターンを選択します。二次機能として、NOTE SLIDE メニューを開きます。

29. [BANK B/F]キーは、Bank BまたはFのパターンを選択します。二次機能として、ACCENTメニューを開きます。

30. [BANK A/E] キーは、Bank A または E のパターンを選択します。二次機能として、TRIG MUTE メニューを開きます。

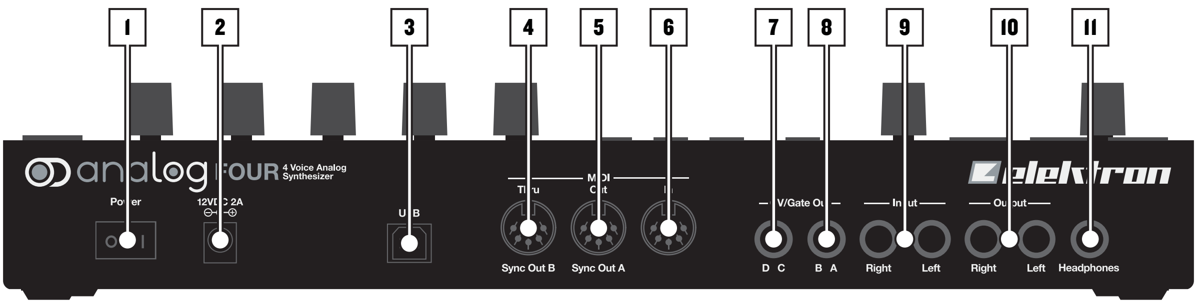
31. [TRIG] キーは、シーケンサーへのトリガーの入力に使用されます。またパターンの選択にも使用します。

32. <PATTERN MODE> の LED は、選択された PATTERN モードを表示します。

33. [BANK GROUP] キーは、アクティブなバンク・グループの選択に使用されます。
二次機能として、異なる PATTERN モードの切り替えに使用します。

34. [FUNCTION] キーは、いくつかのキーに搭載されている二次機能にアクセスします。[FUNCTION] キーを押したまま、パネル上の赤文字で印字されているキーを押すことで、各二次機能へアクセスできます。

リア・コネクタ



Analog Four リア・コネクタ

1. パワー・オン / オフ・スイッチ
2. DC 12V 電源端子
3. USB 2.0 ポート
4. MIDI Thru.
5. MIDI Out.
6. MIDI In.
7. CV CD アウトプット
8. CV AB アウトプット
9. インプット L/R
10. メインアウト L/R
11. ヘッドフォン・アウトプット

- **注意！ Analog Four の電源接続には、同梱の PSU-3 のみをご使用ください。適切な電源コードの使用により、電圧コンバーターを介さずに世界中でご使用いただけます。誤ったアダプタの使用は、装置が損傷する恐れがあります。誤った電源の使用により生じた損傷は保証の対象外です。Analog Four の電力供給の詳細につきましては、43 ページの技術情報をご参照ください。**

Analog Four アクセサリー

ラック・マウント・キット

Analog Four をラック・マウントする場合、標準的な機材の高さにおける 4 ユニットと、ケーブルを接続するために必要な約 1 ユニットを占有します。Analog Four 下部にある 1 U の空きスペースは、通気目的のために推奨されます。

ラック・マウント・キットを組み立てる際には、適切なサイズのプラス・ドライバーの使用してください。Analog Four をラック・マウントする場合は、同梱の M3x6 mm サイズのネジを使用してください。

ECC-2 キャリング・バッグと PL-1 保護ケース

Analog Four 専用キャリング・バッグ。保護用プラスチック・ケースは、Analog Four のパネルにかぶせ、LCD とノブを保護します。保護ケースは、キャリング・バッグに同梱されています。

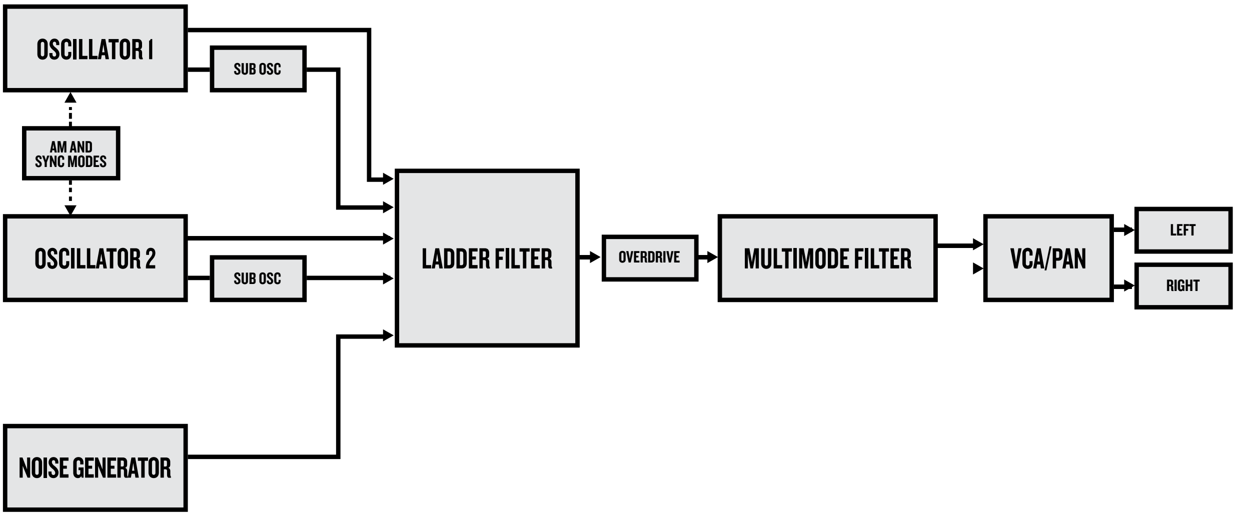
Analog Four の接続

Analog Four に他のユニットを接続する前に、すべてのユニットの電源が OFF になっていることを確認してください。

1. 同梱されている DC アダプタを電源出力に接続し、Analog Four ユニットの 12VDC プラグ・コネクタに接続します。
2. Analog Four のメイン出力 L / R から、ミキサーもしくはアンプに接続します。
3. Analog FourをMIDIコントロールで使用する場合は、Analog FourのMIDI INポートからデータを送信するデバイスの MIDI OUT ポートへ接続します。MIDI THRU ポートは、データを MIDI IN ポートに送るために、MIDI ユニットを連動させることができます。
4. すべてのユニットの電源をオンにします。

Analog Four の信号経路

この略図は、Analog Four の信号経路を示しています。



コンポーネントについて

各ボイスの 2 つのオシレーターは、発振するすべての信号で精巧なアナログ波形を整形する完全なアナログで、ピッチはデジタルで制御されています。ノイズ・ジェネレーターはデジタルです。2 つのフィルターとオーバードライブ回路は、各ボイスともに完全なアナログです。アンプはアナログです。エンベロープと LFO は、デジタルです。この設計により、より深いオーディオ領域を与えました。

信号経路に関するコメント

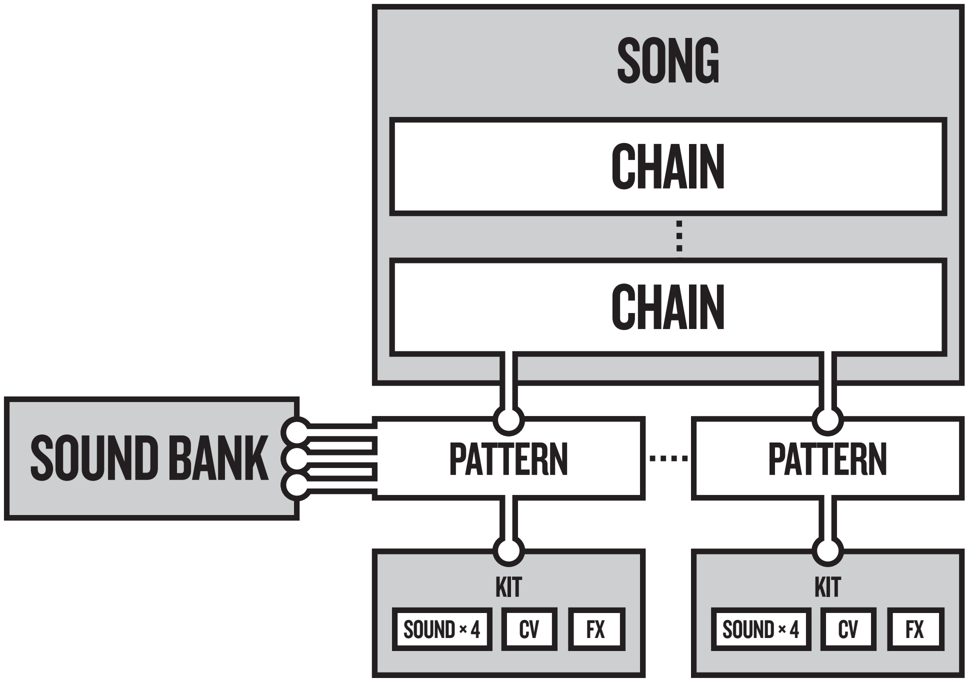
オシレーターからオーディオ出力までの信号経路は完全にアナログです。外部入力からオーディオ出力への信号経路も、完全にアナログです。デジタル・センド・エフェクトは、メインのオーディオ経路と平行であり、デジタル・センド・エフェクトからのウェット信号は、メイン出力の手前でドライなアナログ信号とミックスされます。

オシレーターとフィルターについて

オシレーターは、より豊かなサウンドとより多くの機能を提供するためにゼロから構築されます。ラダー・フィルターは、分離低ノイズ・トランジスターに基づいており、マルチモード・フィルターは、高品質 VCA を使用しています。伝統と革新のコンビネーションは、他のアナログまたはデジタル・シンセサイザーでは類を見ない、多くの可能性を持つユニークなサウンドが得られます。

ANALOG FOUR のデータ構造の概要

この略図は、Analog Four のデータ構造の概要を示しています。



データ構造について

キット

キットは、最大 4 つのサウンドとそれぞれ 1 つずつのシンセ・トラック、FX と CV トラックの設定までを含みます。Analog Four は 128 キットを作成できます。キットはパターンに常時リンクされています。詳しくは、12 ページの「キットとサウンド」をご参照ください。

サウンド

サウンドは、ストアされたシンセ・トラックのパラメーター設定で構成されています。最大 128 サウンドをストアすることができます。各シンセ・トラックは 1 サウンドずつ作成することができます。詳しくは、12 ページの「キットとサウンド」をご参照ください。

バンク

8 つのバンクが存在し、各バンクでは 16 個のパターンを作成することができます。詳しくは、19 ページの「シーケンサー」をご参照ください。

パターン

8 バンク毎に 16 パターンずつ、合計で 128 パターンが用意されています。パターンは、トリガーやパラメーターロック、シンセ・トラックや FX と CV トラックの個々のトラックの長さや拍子のシーケンス・データで構成されています。パターンには、ARP と NOTE ページでの設定も含まれます。詳しくは、19 ページの「シーケンサー」をご参照ください。

ソング

16 のソングが用意されています。ソングは、パターンの再生を構築するために使用されます。詳しくは、32 ページの「ソング」をご参照ください。

チェイン
チェインは、パターンのシーケンスです。最大 256 パターン・スロットを、64 のチェインに割り当てることが可能です。チェインについては、32 ページで詳しく説明されています。

グローバル
グローバル・メニューは、MIDI と CV の設定メニューを含んでいます。4つのグローバル・スロットが利用可能で、各スロットは個別に設定できます。詳しくは、35 ページの「グローバル・メニュー」をご参照ください。

トラックの種類について

シンセ・トラック
シンセ・トラックは、1 から 4 までの 4 つのトラックで構成されています。1 から 4 の [TRACK] キーを押し、編集するシンセ・トラックを選択します。サウンドは、シンセ・トラックにロードされます。

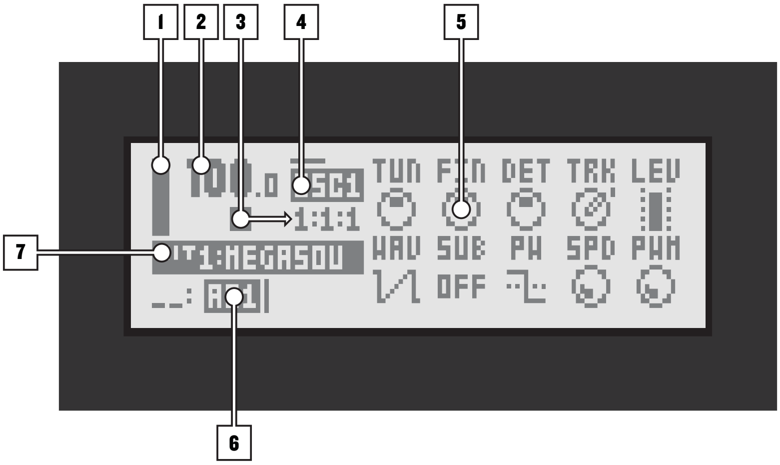
FX トラック
FX トラックは、Analog Four 内蔵マスター·エフェクトをコントロールします。FX トラックを編集するには、[FX TRACK] を押してください。

CV トラック
CV トラックはアナログ CV と Gate 信号を受信できる外部機器をコントロールするために使用されます。CV トラックを編集するには、[CV TRACK] を押してください。

トラックの編集
6 つの [PARAMETER] キーを使用して、トラック編集ページを開きます。トラック・タイプに応じて異なるパラメーターを含んでおり、DATA ENTRY ノブを使用してパラメーターを編集します。ノブを押しながら回すと、より大きな数値でパラメーターが可変します。

ユーザー・インターフェース

Analog Four のエディットの中心部は、LCD ディスプレイです。メイン・インターフェース画面は下記になります :



1. アクティブなトラックの全体的な音量レベルを示すバー。
2. 現在のテンポを小数第一位まで表示。
3. シーケンサーの再生 / 録音ステータスを標準的な "record" と "play"、"pause"、"stop" の記号によって表示。右側のカウンターには、バーやビート、ステップのシーケンサーによる再生回数が表示されます。
4. アクティブな PARAMETER ページを表示。テキスト上部のラインは、アクティブな PARAMETER ページのサブページの有無を示し、横いっぱいのラインは、サブページがないことを意味します。
5. アクティブなトラックの最大で10個のパラメーターを表示。DATA ENTRYノブが何をコントロールするかを示し、現在のパラメーター値も表示します。
6. アクティブなパターンを表示。左側には、アクティブなソングが表示されます。“_ _:” は、スクラッチ・パッドがアクティブであることを示します。
7. アクティブなキットを表示。DATA ENTRY ノブを回すと、調整中のパラメーターのフルネームが表示されます。

- **[NO/RELOAD] キーで、すべてのウィンドウを閉じる事ができます。**
- **アクティブなメニュー上で使用されないボタンとノブは、本来の機能を保持しています。例えば、TEMPO メニューがアクティブな状態でも、DATA ENTRY ノブを使用してフォーカスされたトラックのパラメーターをコントロールすることが可能です。**

パラメーター編集

DATA ENTRY ノブは、トラック・パラメーターの値を変更するために使用されます。フロント・パネル上のノブの物理的な場所は、ディスプレイ上のパラメーター・レイアウトに対応しています。

クイック・パラメーター編集

DATA ENTRY ノブを押しながら回すと、より大きな数値でパラメーターを可変させることができます。これにより、各パラメーター範囲を素早くスイープすることができます。

パラメーター値スキップ

[FUNCTION] を押しながら特定のパラメーターをコントロールすると、パラメーター値が適当な位置へスキップします。例えば、サチュレーター・ディレイのディレイ・タイムの場合、16、32、64、128 へスキップし、オシレーターのチューニングの場合は、オクターブ単位でスキップします。

クイック・スクロール

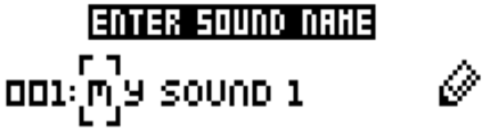
多くのメニュー・ページでは、クイック・スクロールが可能です。[FUNCTION] ＋ [UP] または [DOWN] の矢印キーで、メニュー・ページ単位で移動できます。

コピーとペースト、クリア

コピーとペースト、およびクリア・コマンドは、多くのメニューで実行できます。コピーを実行するには [FUNCTION] ＋ [REC] を押します。ペーストを実行するには [FUNCTION] ＋ [STOP] を押します。クリアを実行するには [FUNCTION] ＋ [PLAY] を押します。ペーストとクリアの場合、直前のコマンドを実行することで、各操作をアンドゥすることができます。これらのコマンドの詳細につきましては、各セクションをご参照ください。

ネーミング・メニュー

ネーミングは、様々なネーミング・メニューにおいて同様の操作です。



[LEFT] と [RIGHT] の矢印キーで、文字間を移動します。LEVEL ノブを回すか、[UP] または [DOWN] の矢印キーで文字を選択します。[FUNCTION] ＋ [NO/RELOAD] で、文字が消去されます。

ポップアップ・ネーミング・メニュー

NAMING メニューでは、利用可能なすべての文字、記号、数字を表示するポップアップ・メニューを開くことが可能です。多くの場合、ポップアップ・メニューを使用することで、より素早いネーミングが可能となります。NAMING メニューが表示されている場合に、[FUNCTION] キーを押すと、ポップアップ・メニューにアクセスできます。



[FUNCTION] ＋ [ARROW] キーで、入力する文字へ移動し、[FUNCTION] を放して文字を入力します。

- **コピーとペースト、クリア・コマンドは、ネーミング・メニューで使用可能です。**

クイック・スタート

クイック・スタートでは、Analog Four をすぐに使い始められるように、いくつかの基本的な操作をご紹介いたします。まずは、5 ページの「ユニットの接続」を参照し接続を行います。

ファクトリー・プリセットの再生

Analog Four には、いくつかのプリセット・パターンやキット、サウンドが搭載されています。Analog Four をすぐに使用する場合は、以下の操作を行ってください。

1. Analog Four の電源スウィッチをオンにします。
2. [PLAY] キーを押すと、デモパターンのパターン A01 が再生されます。
3. バンク·グループA-Dが選択されていることを確認し、2番目のデモパターンであるパターンA02を選択します。<BANK GROUP> は、選択されたバンク・グループを表示します。A-D が選択されていない場合は、[BANK GROUP] キーを押し、バンク・グループ A-D を選択してください。
4. [BANK A/E] + [TRIG] キー 2 を押すと、現在再生中のパターン終了後に、パターン A02 が再生されます。同様に、[BANK A/E] + [TRIG] キー 3 を押すと、パターン A03 が選択されます。
5. [FUNCTION] + [TRACK] キーを押すと、トラックをミュートすることができます。同様の操作でミュートを解除できます。
6. [STOP] を押して再生をストップします。

PERFORMANCE モード

PERFORMANCE モードは、DATA ENTRY ノブで複数の PARAMETER ページのパラメーターを一括してコントロールできます。これらのパラメーター・マッピングは、パラメーター・マクロと呼ばれます。

1. パターンが再生されていることを確認してください。
2. PERFORMANCE モードにアクセスするには、[PERFORMANCE] キーを押します。
3. DATA ENTRY ノブを回して、パターンのサウンドがどのように変化するかを確認してください。

パラメーターの調整

各トラックには、6 つの PARAMETER ページが含まれており、トラックのサウンドに影響を与えているパラメーターが存在します。

1. パターンが再生されていることを確認してください。
2. 4 つのシンセ・トラックから任意の [TRACK] キーを押し、シンセ・トラックを選択します。
3. ラダー·フィルターのカットオフを調整するには、[FILTERS] キーを押し、FILTERS ページを開きます。DATA ENTRY ノブ A を回して、FRQ のラベルが付いたパラメーター値を調整してください。
4. サウンド・デザインの可能性を試すため、PARAMETER ページの他のパラメーターを調整してみてください。
5. サウンドを元の状態に戻す場合は、[NO/RELOAD] + [KEYBOARD D1] を押してください。
6. キットを元の状態に戻す場合は、[NO/RELOAD] + [KEYBOARD C1] を押してください。

キットとサウンド

キットとサウンドは Analog Four の基本的な構造ブロックです。これらにはトラックのパラメーター設定に関する情報が含まれます。キットは、設定だけではなく、サウンドの集合体でもあります。サウンドは基本的にシンセ・トラックのパッチです。サウンドは、シンセ・トラックにロードすることができます。

キットとサウンドは分離されているため、キットでは必ずしも保存したサウンドを使用する必要はありません。キットを保存する場合、シンセ・トラックの PARAMETER ページ設定、すなわちサウンドを構成する設定が、キットと共に保存されます。キットのシンセ・トラックの PARAMETER ページ設定は、個別のサウンドとして保存することも可能です。サウンドをロードすると、そのサウンドはキットの一部となり、サウンドに加えられた変更は、サウンド自体ではなく、キットに変更が加えられます。

キットの再生をコントロールするパターンは、常にキットにリンクされています。パターンを変更すると、キットも変更される場合があります。

キットには以下が含まれます :

- 4 つのシンセ・トラックにロードされたサウンド。
- FX トラックのパラメーター設定。
- CV トラックのパラメーター設定。
- シンセと FX トラックのレベル設定。
- PERFORMANCE モードのパラメーター設定。

サウンドには以下が含まれます :

- シンセ・トラックの PARAMETER ページの設定。

- **画面左側の LCD グラフィックは、現在アクティブなキットを表示します。[TRACK] キーを押すと、選択したトラック名が一時的に表示されます。シンセ・トラックを押した場合には、現在ロードされているサウンド名が一時的に表示されます。**

キット・メニュー

キットに関連する KIT メニュー・コマンドで、最も重要なコマンドは、キットの保存とロードです。[FUNCTION] + [KEYBOARD C1] を押して、メニューを開きます。コマンド間の移動には [UP] と [DOWN] の矢印キーを使用します。[YES/SAVE] を押してコマンドを選択、確定してください。[NO/RELOAD] を押してメニューを終了してください。



RELOAD KIT は、キットを保存したステータスに戻すためにリロードを行います。

LOAD KIT は、最大で 128 個の保存されたキットの中から、1 つのキットをロードするメニューを開きます。メニューを開くとキットのリストが表示されます。[ARROW] キーまたは LEVEL ノブを使用してロードするキットを選択します 。[LEFT] と [RIGHT] の矢印キーは、メニュー・ページ間を素早く移動します。キットを選択したら、[YES/SAVE] を押してロードします。ロードされたキットはアクティブ・パターンにリンクされます。



SAVE KIT は、現在のキットに関連しているすべての設定をキットとして保存することができます。保存されたキットは、アクティブ・パターンにリンクされます。

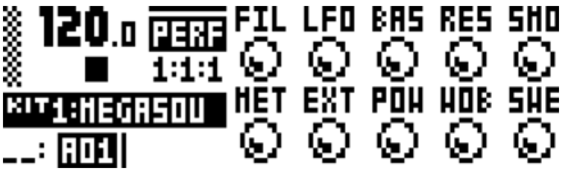
メニューを開くとキットのリストが表示されます。[ARROW] キーまたは LEVEL ノブを使用して、保存するキット・スロットを選択します。[YES/SAVE] を押して、選択したスロットにキットを保存します。NAMING メニューについては、10 ページをご参照ください。

CLEAR KIT は、現在ロードされているキットの内容をクリアし初期化します。このオプションを選択すると、プロンプトが表示されます。[YES/SAVE] を押してキットをクリアするか、[NO/RELOAD] で操作をキャンセルします。クリア・キットの実行によりキットの内容はクリアされますが、同一のキット・スロットへ新たなキットが保存されるまで、永久にその内容が失われることはありません。

- **コピーやペースト、クリア・コマンドは、LOAD KIT や SAVE KIT、PERFORMANCE SETUP において使用可能です。**
- **LOAD KIT や SAVE KIT では、LEVEL ノブを押しながら回すと、素早くスクロールします。**
- **お好みのキットを作成したら、保存することを強くおすすめします。**

PERFORMANCE モード

PERFORMANCE モードでは、ひとつの DATA ENTRY ノブで、複数のトラックに一括して影響を与えるいくつかのトラック・パラメーターをコントロールすることができます。PERFORMANCE モードの設定は、キットの一部として保存されます。[PERFORMANCE] キーを押してモードにアクセスします。



利用可能な 10 のパフォーマンス・マクロは Performance メニューで表示されます。パラメーター・マクロ設定を調整するには、DATA ENTRY ノブを回します。

PERFORMANCE モード設定

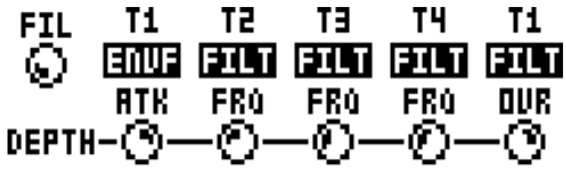
PERFORMANCE モードで使用可能な 10 のパフォーマンス・マクロは、PERFORMANCE SETUP メニューで設定できます。このメニューにアクセスするには、[FUNCTION] + [PERFORMANCE] を押します。



PERFORMANCE CONFIGURE では、パラメーターをパフォーマンス・マクロに割り当てることができます。このオプションを選択すると、パラメーターが割り当てられているパフォーマンス・マクロやノブのリストが表示されます。



[UP] と [DOWN] 矢印キーで、編集するパフォーマンス・マクロに対応した DATA ENTRY ノブを選択します。[YES/SAVE] を押して、選択を実行してください。選択されたパフォーマンス・マクロに割り当てられたトラック・パラメーター・メニューが表示されます。



最大で 5 つのトラック・パラメーターを、パフォーマンス・マクロにアサインできます。パラメーターは、6 つのすべてのトラックから用いることができます。DATA ENTRY ノブ A-E を押して、トラック・パラメーターのアサインに用いるトラックを選択します。DATA ENTRY ノブ A-E を回して、アサインするトラック・パラメーターを選択します。DATA ENTRY ノブ F-J は、5 つのトラック・パラメーターのデプスの設定に使用されます。デプスは、元のトラック・パラメーター値へのオフセットです。

デフォルトでは、パラメーター・マクロ・ノブのパラメーター値は 0 ～ 127 の範囲で可変します。パラメーター・マクロ値が 0 の場合は、サウンドに変化を与えません。LEVEL ノブを押すと BIPOLAR モードの切り替えが可能です。BIPOLAR にチェックを入れると、パラメーター・マクロ・ノブの可変範囲は -64 ～ +63 になります。

パターンやサウンドの再生中に LEVEL ノブを回すと、パフォーマンス・マクロがサウンドにどのように影響するかをプレビューできます。

- **PERFORMANCE モード・パラメーターは、パラメーター・ロックを適用することはできません。**

- **例えばトラック 1 の OSC1 RITCH のデプスが 63 に設定され、パラメーター・マクロの BIPOLAR モードが非設定の場合は、パラメーター・マクロ値を 127 にすると、OSC1 PITCH のパラメーターに、オフセットで +63 のパラメーター値が引き合わせられます。マクロ・ノブが BIPOLAR モードに設定され、パラメーター・マクロ値を +63 にすると、OSC1 PITCH のパラメーターに、オフセットで +63 のパラメーター値が引き合わせられます。逆に、パラメーター・マクロ値を -64 にすると、OSC1 PITCH パラメーターに、オフセットで -64 のパラメーター値が引き合わせられます。**
- **ライブ演奏時は、演奏に関連するパラメーターに影響を与えるパラメーター・マクロを使用してください。入念にパラメーター・マクロを設定することで、ライブにおけるこのモードの重要性に気付くかもしれません。**

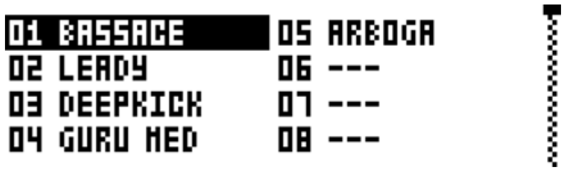
PERFORMANCE RENAME では、パフォーマンス・マクロ・ノブに名前を付けることができます。[UP] と [DOWN] の矢印キーを使用し、名前を付けるパフォーマンス・マクロに対応した DATA ENTRY ノブを選択します。[YES/SAVE] を押して、選択を実行してください。NAMING メニューが表示されます。

サウンド・メニュー

このメニューでは、個々のサウンドが管理されています。[FUNCTION] + [KEYBOARD D1] を押し、メニューを開きます。[UP] と [DOWN] の矢印キーでコマンド間を移動します。[YES/SAVE] を押して、選択を実行してください。メニューを終了するときは、[NO/RELOAD] を押します。



LOAD TRACK SOUND では、最大 128 の保存されたサウンドから 1 つのサウンドをロードします。サウンドは、アクティブなシンセ・トラックにロードされ、アクティブなキットの一部となります。メニューを開くとサウンド・リストが表示されます。



[ARROW] キーまたは LEVEL ノブを使用してロードするサウンドを選択します 。[LEFT]/[RIGHT] は、メニューページ間を素早く移動します。サウンドを選択したら、[YES/SAVE] を押し、ロードします。ハイライト表示させた状態で、[KEYBOARD] キーを押すとサウンドをプレビューできます。サウンドは、アクティブなトラックを経由して再生されます。プレビューするサウンドが経由するアクティブ・トラックにエフェクトを使用している場合、現在のエフェクト設定に影響を受けることに注意してください。

SAVE TRACK SOUND では、アクティブなシンセ·トラックの PARAMETER ページ設定をサウンドとして保存できます。

CLEAR TRACK SOUND は、現在ロードされているサウンドを初期化します。このオプションを選択すると、プロンプトが表示されます。[YES/SAVE] を押してサウンドのクリアを実行するか、[NO/RELOAD] でキャンセルを行なってください。サウンドがロードされた同じキットスロットへ保存されるまで、サウンドの情報は永久に失われることはありません。

クリア・トラック・サウンドの実行によりサウンドの情報はクリアされますが、同一のサウンド・スロットへ新たなサウンドが保存されるまで、永久にその情報が失われることはありません。

RENAME SOUND では、アクティブなトラックのサウンド名を変更します。

SOUND SETTINGS では、サウンドに関わる様々な設定を行います。[UP]/[DOWN] 矢印キーまたは LEVEL ノブを使用して、メニュー内をスクロールします。設定を変更するには、[LEFT]/[RIGHT] 矢印キーを使用します。



OSCILLATOR DRIFT がアクティブの場合、オシレーターに非常に微妙なピッチの揺れを伝え、それらを感知させ、アナログの温かさを増すことができます。

LEGATO MODE がアクティブの場合、[KEYBOARD] キーによる手動演奏または MIDI ノートを受信してトリガされたサウンドは、エンベロープが引き継がれるためリトリガされません。シーケンサーのノートには、影響されないことに注意してください。

PORTAMENTO がアクティブの場合、ノート間をピッチ・スライドさせます。設定は [KEYBOARD] キーによる手動演奏または MIDI ノートを受信してトリガされたサウンドにのみ影響を与えます。シーケンサーのノートには影響されません。シーケンサー・ノートのスライドについては、26 ページで説明されている NOTE SLIDE が適用されます。

- OFF は、ポルタメントをオフにします。演奏されたノートは全く影響を受けません。

- ON は、ポルタメントをオンにします。すべての手動演奏されたノートが影響されます。
- LEGATO は、重複したノートのみポルタメントをアクティブにします。この設定を有効にするためには、LEGATO MODE をアクティブにする必要があります。

VELOCITY TO VOL は、MIDI キーボードでサウンドを演奏する場合に、MIDI ベロシティがボリュームに対してどのように影響を与えるかを選択します。

- OFF は、ベロシティがサウンドのボリュームに影響を与えません。
- LOG は、対数（ロガリスミック）・ベロシティ・カーブを適用します。キーボードを柔らかく弾いた場合と激しく弾いた場合の音量差が小さくなります。
- LIN はリニア・ベロシティ・カーブを適用します。キーボードを弾いたときの音量差は、加えられた力に比例します。
- EXP は、指数関数的（エクスポネンシャル）ベロシティ・カーブを適用します。キーボードを柔らかく弾いた場合と激しく弾いた場合の音量差が大きくなります。

VELOCITY MOD は、ベロシティ・パラメーターに最大 5 つの PARAMETER ページ・パラメーターをアサインするメニューへアクセスします。NOTE メニューの VEL パラメーターと外部機器から Analog Four に送信された MIDI ノートのベロシティが、アサインされたパラメーターに影響を与えます。**[YES/SAVE]** ボタンを押してメニューを開きます。パラメーターの動作設定は、13 ページで説明されているパフォーマンス・マクロの設定と同様です。

PITCH BEND は、MIDI ピッチ・ベンド・コマンドに最大 5 つの PARAMETER ページ・パラメーターをアサインするメニューへアクセスします。外部機器から Analog Four に MIDI ピッチ・ベンド・メッセージが送信された場合、このメッセージは、メニューに割り当てられたパラメーターに影響を与えます。**[YES/SAVE]** ボタンを押してメニューを開きます。パラメーターの動作設定は、13 ページで説明されているパフォーマンス・マクロの設定と同様です。

MODULATION WHEEL は、MIDI モジュレーション・ホイール・コマンド（CC ＃ 1）に最大 5 つの PARAMETER ページ・パラメーターをアサインするメニューへアクセスします。**[YES/SAVE]** ボタンを押してメニューを開きます。パラメーターの動作設定は、13 ページで説明されているパフォーマンス・マクロの設定と同様です。

BREATH CONTROLLER は、MIDI ブレス・コントローラー・コマンド（CC ＃ 2）に最大 5 つの PARAMETER ページ・パラメーターをアサインするメニューへアクセスします。**[YES/SAVE]** ボタンを押してメニューを開きます。パラメーターの動作設定は、13 ページで説明されているパフォーマンス・マクロの設定と同様です。

AFTERTOUCH は、MIDI アフタータッチ・コマンドに最大 5 つの PARAMETER ページ・パラメーターをアサインするメニューへアクセスします。**[YES/SAVE]** ボタンを押してメニューを開きます。パラメーターの動作設定は、13 ページで説明されているパフォーマンス・マクロの設定と同様です。

サウンドの再生

サウンドを再生する場合は、**[KEYBOARD]** キーを使用します。再生するサウンドを選択するには、1-4 の **[TRACK]** キーを押します。トラック・キーを押した場合、LCD に表示されるアクティブなキットの情報は、選択したトラックにロードされているサウンド名の表示に切り替わります。

[KEYBOARD] キーのレンジは、1 オクターブと 1 ノートです。デフォルトでは、最初と最後の **[KEYBOARD]** キーは C のノートを再生します。オクターブを変更するには、**[UP]** と **[DOWN]** の矢印キーを使用します。<OCTAVE> の LED は、現在どのオクターブが選択されているかを表示します。**[ARROW]** キーを使用するメニューが開いている場合は、オクターブを変更することはできませんので注意してください。

サウンドは、ポルタメントやレガート・モードで再生することができます。それぞれをコントロールする設定は、15 ページの SOUND メニューで説明されています。

- **FX トラックを選択すると、直前に選択されていたアクティブ・トラックの <TRACK LED> は半点灯となります。これは、このトラックにおいて [KEYBOARD] キーが、ノートをトリガできることを示しています。**

これにより、エフェクト・パラメータでの調整が、直前のアクティブ・トラックにどのように影響すのるかを聞くことができます。[FX] を再度押して、FX トラックを完全にアクティブにします。FX トラックを完全にアクティブにした後に、[KEYBOARD] キーでコントロールします。

MIDI キーボードでのサウンドの再生

シンセ・ボイスは、Analog Four に接続された外部 MIDI キーボードで演奏することも可能です。MIDI トラック・ボイスの設定については、37 ページの MIDI CHANNELS メニューで説明されています。

サウンドの編集

サウンドを編集するには、1-4 の **[TRACK]** キーを押して、任意のシンセ・トラックを選択します。アクティブなシンセ・トラックのサウンドが編集されます。

アクティブなトラックの全体音量は、**LEVEL** ノブで調節します。

サウンドは、シンセ・トラック PARAMETER ページに搭載されているパラメーターを調整することで編集できます。**[PARAMETER]** ページ・キーを押し、PARAMETER ページにアクセスします。サブページを含むページの場合は、**[PARAMETER]** ページ・キーをもう一度押してアクセスします。パラメーターの調整には、**DATA ENTRY** ノブを使用します。

PARAMETER ページには、6 つの異なるページが存在します。パラメーター機能の完全な説明については、" 付録 A：シンセ・トラック・パラメーター " をご参照ください。

OSC1 は、オシレーター 1 をコントロールします。ノイズ・ジェネレーターのサブページが含まれています。

OSC2 は、オシレーター 2 をコントロールします。サブページは、両方のオシレーターに関連するパラメーターをホストします。

FILTERS は、2 つのフィルターとオーバードライブをコントロールします。24dB/ オクターブ・4 ポール・ローパス・ラダー・フィルターと 2 ポール・マルチモード・フィルターが搭載され、オーバードライブと直列に接続されています。

AMP は、アンプリチュード・エンベロープのパラメーターが含まれています。エフェクト・センドもこのページに搭載されています。

ENV は、アサイン可能な 2 つのエンベロープを提供しています。1 つ目のエンベロープは、フィルターをコントロールします。2 つ目のエンベロープはサブページにあります。

LFO は、アサイン可能な 2 つの LFO を提供しています。サブページが 1 つ含まれています。

FX と CV トラックの編集

FX と CV トラックの編集は、シンセ・トラックのサウンドの編集に非常によく似ています。PARAMETER ページは、2 種類のトラックに関連するパラメーターが含まれています。FX と CV トラックのパラメーターに関する詳細な説明については、“ 付録 B：FX トラック・パラメーター ” と “ 付録 C：CV トラック・パラメーター ” をご参照ください。

⚠

- **FX と CV トラックのパラメーター設定は、キットの一部として保存されます。**

FX トラック

FX トラックは、Analog Four の内蔵センド・エフェクトをコントロールします。FX トラックを編集するには、[TRACK FX] キーを押してください。FX トラックのための 5 つの PARAMETER ページが存在します。

EXT IN は、外部入力に関連するパラメーターが含まれています。

CHORUS は、ワイドシフト・コーラス・エフェクトをコントロールします。

DELAY は、サチュレーター・ディレイ・エフェクトをコントロールします。

REVERB は、スーパーボイド・リバーブ・エフェクトをコントロールします。

LFO は、FX トラック・パラメーターをモジュレートする 2 つの LFO のパラメーターが含まれます。

CV トラック

CV トラックは、CV/Gate 信号を受信できる外部機器をコントロールするために使用されます。CV トラックを編集するには、[TRACK CV] を押してください。CV トラックには、6 つのパラメータのページが含まれています :

CV A は、CV A アウトプットから送信される信号をコントロールします。

CV B は、CV B アウトプットから送信される信号をコントロールします。

CV C は、CV C アウトプットから送信される信号をコントロールします。

CV D は、CV D アウトプットから送信される信号をコントロールします。

ENV は、CV トラック・パラメーターのコントロールに使用される 2 つのアサイン可能なエンベロープを提供しています。

LFO は、CV のトラック・パラメーターのコントロールに使用可能な 2 つのアサイン可能な LFO を提供しています。

トラックのミュート

ミュート・トラックは、[FUNCTION] + [TRACK] キーを押し、トラックをミュートします。シーケンサーのノート・トリガに限りミュートされます。よって、[KEYBOARD] キーを使用してミュート・トラックを再生することも可能です。

<TRACK> の LED はミュートの状態を示します。<TRACK> の LED が消えた状態が、ミュート・トラックを示します。<TRACK> の LED が緑色の場合は、可聴トラックを示しています。<TRACK> の LED が赤色の場合は、アクティブな可聴トラックを示しています。<TRACK> の LED が黄色の場合は、アクティブなミュート・トラックを示しています。

シーケンサー

Analog Four のシーケンサーは、パターンの情報を記憶します。パターンは、シンセや FX と CV トラックの様々なアスペクトの再生をコントロールします。A-H までの 8 つのバンクは、それぞれ 16 パターンをホストでき、合計で 128 パターンが利用可能です。パターンに対して行われたすべての調整が自動的に保存されます。アクティブ・パターンに加えられた変更は、元に戻すことができます。詳しくは、21 ページの PATTERN MENU をご参照ください。パターンには以下の内容が含まれています。

- **すべてのトラックのノート・トリガ**
- **すべてのトラックのトリガレス・ロック**
- **パラメーターロック**
- **トリガ・ミュート**
- **アクセント・トリガ**
- **ノートとパラメータースライド・トリガ**
- **スウィング・トリガ**
- **ARP と NOTE メニューのパラメーター設定**
- **パターンにリンクされているキットの情報**
- **トラックの長さと拍子**

基本パターンの操作

Analog Four は、パターンをシームレスに切り替えることができます。これに加え、チェイン・パターン機能は、例えばライブでの即興を行う場合に便利な機能です。

パターンの選択

[BANK GROUP] キーを押して、バンク・グループを選択します。例えば、A-D のバンク・グループを選択すると、A、B、C、D バンクのパターンを選択することができます。続いて、選択するパターンの [BANK] キーを押したまま、[TRIG] キーでパターンを選択します。例えば、B05 のパターンを選ぶ場合、[BANK GROUP] キーを使って A-D のバンク・グループを選択します。それから [BANK B/F] を押したまま、[TRIG 5] を押します。

パターン･データを含むパターンは、<TRIG> の LED が半点灯の赤色で示されます。現在アクティブなパターンは、<TRIG> の LED が完全点灯の赤色で表示されます。

- **パターンの選択は、片手のみで行うことができます。[BANK] キーが押された後、ウィンドウに数秒間 "CHOO SE PTN" と表示されます。このウィンドウが表示されている間に、[TRIG] キーが押された場合は、パターンの選択が実行されます。**
- **シーケンサーの再生中にパターンを変更することができます。**

パターン・コントロール

[PLAY] キーを押すと、パターンの再生がスタートします。[STOP] を押すと、すべてのトラックの再生を停止します。サウンドは遮断されますが、サチュレーター・ディレイなどのエフェクトは、ディレイ・リピートがフェード・アウトするまで聞こえ続けます。[STOP] + [STOP] を素早く押すことで、全トラックの再生を停止して、センド・エフェクトをフェード・アウトします。

パターンの再生中に [PLAY] を押すと、再生が一時停止されます。もう一度 [PLAY] を押すと、再生が再開されます。

<PATTERN PAGE>LED は、パターンが 16 以上のシーケンサー・ステップを含んでいる場合に、これを示します。パターンの再生中は、<PATTERN PAGE>LED の点滅や完全点灯によって、現在アクティブなパターン・ページが示されます。

テンポ
パターン・テンポは、グローバルで、すべてのパターンに影響を与えます。パターン・テンポは、TEMPO メニューで設定します。[TEMPO] を押して TEMPO メニューを開きます。



テンポを変更するには、LEVEL ノブを使用します。[UP] と [DOWN] キーで、テンポの小数部分を変更します。タップでテンポ設定を行う場合、[FUNCTION] キーを押したまま、一定のリズムで [TEMPO] キーをタップします。4 回連続でタップされた後にタップの平均テンポが計算されます。継続的にタップを行うことにより、平均テンポは更新され続けます。

テンポは、[LEFT] または [RIGHT] の矢印キーを押すことによって、一時的に上下に 10%ずつシフトさせることができます。矢印キーを離すと、元のテンポに戻ります。

TEMPO メニューで、[FUNCTION] を押しながら LEVEL ノブを回した場合、[FUNCTION] キーが離されるまで、テンポは変更されません。

- **テンポ・シフトは、Analog Four を手動でターンテーブルなどの外部音源に同期する時にとても便利です。テンポ・シフトの実行は、TEMPO メニューである必要はありません。**

パターン・モード

パターンを変更する場合、アクティブなパターンの変更方法に影響を与える様々なモードが存在します。[FUNCTION] + [BANK GROUP] を押して、PATTERN モードの切り替えを行います。<PATTERN MODE> の LED が、現在選択されているモードを示します。3 つのパターン・モードが存在します。

DIRECT START は、パターンをすぐに変更します。新しいパターンは、最初から再生が開始されます。このモードは、<PATTERN MODE> の LED が赤色に点灯することにより示されます。

DIRECT JUMP は、パターンをすぐに変更しますが、新しいパターンは、直前のパターンの再生位置を引き継ぎ再生されます。このモードは、<PATTERN MODE> の LED が緑色に点灯することにより示されます。

SEQUENTIAL は、現在再生されているパターンが終了した後にパターンを変更します。このモードは、デフォルト・モードです。このモードは、<PATTERN MODE> の LED が消灯することにより示されます。

パターンのレコーディング・モード

Analog Four は、パターンを制作する際のトリガの入力方法として、GRID RECORDING モードと LIVE RECORDING モードの 2 つのメイン・モードを提供します。これらのモードでは、トリガとトリガレス・ロックの 2 種類のトリガを入力できます。

トリガ・タイプ
ノート・トリガとトリガレス・ロックの 2 種類のトリガが存在します。ノート・トリガは、ノートをトリガし、トリガレス・ロックは、ノート・トリガ無しのパラメーター・ロックを適用するために使用されます。ノート・トリガは 、<TRIG> の LED の完全点灯によって示され、トリガレス・ロックは、<TRIG> の LED の半点灯によって示されます。パラメーター・ロックの詳細については、24 ページの PARAMETER LOCKS の章をご参照ください。2 種類のトリガは、GRID もしくは LIVE レコーディング・モードのそれぞれに応じて異なる方法で入力されます。

グリッド・レコーディング・モード
GRID RECORDING とは、[TRIG] キーを使用してトリガを入力する制作方法のことです。

[REC] キーを押すと、GRID RECORDING モードになります。<REC> の LED の赤色点灯は、GRID RECORDING モードがアクティブであることを示します。[TRACK] ボタンを押して、トリガを入力するトラックを選択します。[TRIG] キーを押して、シーケンサーにノート・トリガを配置します。シンセ・トラックのトリガに音符を追加するには、[TRIG] キーを押しながら、[KEYBOARD] キーを押します。トリガレス・ロックを追加するには、[FUNCTION] と [TRIG] を押します。

パターンに 16 以上のステップが含まれている場合、[PAGE] キーを押すことで、編集したいパターン・ページに移動できます。アクティブなパターン・ページは、完全点灯した <PATTERN PAGE> の LED によって示されます。

シーケンスを聴くために [PLAY] キーを押します。

- **トラックのすべてのトリガは、前後にシフトさせることができます。GRID RECORDING モードでは、[FUNCTION] キーを押しながら [LEFT] または [RIGHT] の矢印キーを押すことでトリガ・シフトを実行します。**

ライブ・レコーディング・モード

LIVE RECORDING モードは、トラックにトリガを入力する 2 つ目の方法です。このレコーディング・モードでは、[KEYBOARD] キー、または Analog Four に接続した外部 MIDI キーボードを使用することで、トラックにトリガをリアルタイムで入力し、再生することができます。そのうえ、リアルタイムでパラメーター・ロックを設定することも可能です。LIVE RECORDING モードでのトリガ入力は､マイクロ･タイム･ファッションでシーケンサーに配置され､NOTES SETUP メニューの μTM パラメーターが、LIVE RECORDING モードでより正確なトリガの入力タイミングを反映させます。これは、LIVE RECORDING モードでの、より表現的で非クオンタイズなレコーディングを可能とします。マイクロ・タイム・トリガは、クオンタイズすることができます。μTM パラメーターの詳細については、23 ページをご覧ください。クオンタイズについては、24 ページで説明されています。

LIVE RECORDING モードにアクセスするには、[RECORD] を押しながらを [PLAY] を押します。シーケンサーが再生を開始すると <RECORD> の LED が点滅し始めます。この状態で、[KEYBOARD] キーを押すことにより、アクティブなトラックにリアルタイムでトリガを入力できます。[KEYBOARD] キー押すことで、シンセと CV トラックに音符がレコーディングされます。

リアルタイムでトラックから全てのトリガを消去するには、[TRACK] + [NO/RELOAD] を押し続けます。この場合、シーケンサー上の LED が通過したトリガは、アクティブなトラックから消去されます。複数のトラックのトリガは、同時にいくつかの [TRACK] キーを押すことにより削除することができます。

レコーディングとシーケンサーの再生の両方を停止するには、[STOP] を押します。シーケンサーの再生を維持しながら、LIVE RECORDING を終了するには、[PLAY] を押します。LIVE RECORDING がアクティブの状態で [REC] ボタンを押すと、GRID RECORDING モードになります。

パターン・メニュー

パターン・メニューでは、パターンの保存とリロードを行うことができます。[FUNCTION] + [KEYBOARD F1] を押しメニューを開きます。[UP]/[DOWN] の矢印キーを使用してコマンド間を移動します。[YES/SAVE] で選択内容を実行します。



RELOAD PATTERN は、アクティブ・パターンをリロードします。元の自動保存状態もしくは SAVE PATTERN コマンドを使用して保存した特定の保存状態にリロードされます。RELOAD PATTERN コマンドへショートカットするために、[NO/RELOAD] + [KEYBOARD F1] を押します。

SAVE PATTERN は、アクティブなパターンへの変更を保存します。これは、パターンの変更で行われる自動保存に加えて一般的に利用可能な特別機能です。この機能は、あなたが、パターンの作業中に、結果が良好で、特定の保存状態に戻す能力がある間、パターンの作業を続けたい状況において便利です。SAVE PATTERN コマンドは、これを可能にします。パターンをリロードするとき、元の自動保存状態にリロードされませんが、手動での保存状態にリロードされます。SAVE PATTERN コマンドへのショートカットは、[YES/SAVE] + [KEYBOARD F1] を押します。

- **RELOAD PATTERN コマンドは、ライブでの即興でその素晴らしさを発揮します。アクティブ・パターンへ加えられたすべての変更は、すぐに元に戻すことができます。**

アルペジエーター

ARPEGGIATOR メニューは、各トラックに 1 機づつ搭載されている 6 つのアルペジエーターをコントロールします。アルペジエーターの設定は、パターンの一部であり、キットには含まれません。[TRACK] キーを押してアルペジエーターを編集するトラックを選択します。[ARP] を押して、ARPEGGIATOR メニューを開きます。



MOD は、アルペジエーターをアクティブにして、アルペジオノートの設定をコントロールします。

- OFF は、アルペジエーターを非アクティブにします。
- TRU は、ノートが入力された順序で再生します。
- UP は、オクターブ単位で、最低音から最高音にかけて、昇順でノートを再生します。
- DWN は、オクターブ単位で、最高音から最低音にかけて、降順でノートを再生します。
- CYC は、ノートを昇順で再生してから降順で再生します。
- SHF は、オクターブの範囲ごとにランダムにノートを再生します。例えば、アルペジオに 2 つの RNG 設定がある場合、最初のオクターブ・レンジのノートがランダムに再生され、すべてのノートが演奏されると、2 番目のオクターブのすべてのノートが新たなランダム順で再生されます。
- RND は、アルペジオ・ノートの再生をランダム化します。

SPD は、アルペジエーターの速度を設定します。これは、プロジェクトの BPM に同期されます。SPD を 6 に設定した場合は 16 分音符に等しく、12 に設定した場合は 8 分音符などに相当します。

RNG は、アルペジエーターのオクターブ・レンジを設定します。完成した各アルペジエーター・サイクルの後、アルペジオ・ノートは、1 オクターブ上に移調されます。ノートが RNG 設定によりオフセットされたオクターブに到達したとき、ノートは初期値にリセットされます。そこからオクターブ・トランスポーズは、再度起動されます。

LEG は、アルペジエーターのレガートをコントロールします。MOD 設定が OFF の場合でも、この設定は、トラックのノート・トリガに影響を与えます。

- ON は、重複したノートをレガートして再生します。NLEN 設定は、アルペジエーターのノートの長さを調整します。アルペジエーターが、非アクティブの場合、LEN 設定は、トリガのノートの長さを調整します。
- OFF は、各アルペジオ・ノートの開始前に MIDI ノートのオフ・メッセージを送信します。

LEN は、アルペジオ・ノートの長さをコントロールします。

N02-N04 は、3 つの追加アルペジオ・ノートのオフセットを半音単位で選択をします。オフセットは、オリジナルのノート・トリガから生成さています。NOTES SETUP メニューの TRK KEY SCALE と TRK KEY NOTE の設定は、アルペジオ・ノートのノート値に影響を与えます。

アルペジエーターの設定

[FUNCTION] + [ARP] キーを押して、ARPEGGIATOR SETUP メニューを開きます。ここでアルペジエータの長さとノート・オフセットが設定されます。



E のノブを回して、アルペジオの長さを選択します。レングスは、最長で 16 のシーケンサー・ステップです。

アルペジオのノート・オフセットは、[TRIG] キーを押して DATA ENTRY ノブ A を回すことで入力できます。同時にいくつかの [TRIG] キーを押すことによって、1 つ以上のステップのノート・オフセットを調整することが可能です。

ノート・メニュー

ノート・メニューは、アクティブなトラックのための全般的なノートの設定をコントロールします。[NOTE] を押してメニュー開きます。NOTE メニュー設定は、パターンの一部であり、キットには含まれません。



シーケンサーでトリガを配置するとき、NOTE メニュー設定で表示されるパラメーター設定は、デフォルト設定です。例えば、3 つのノート・トリガを入力した後に、ノート・レングス・パラメーター設定を変更し、さらに 3 つのノートを入力した場合は、最初の 3 つのノート・トリガと次の 3 つのノートは異なるノート・レングスとなります。ノートごとに個別の設定を追加するには、パラメーター・ロックを使用します。この機能については、24 ページの PARAMETER LOCKS をご覧ください。

NOT は、デフォルトのノート値です。

VEL は、ベロシティ値を設定します。この値は、すべての VELOCITY MOD メニューの割り当てに影響を与えますのでご注意ください。このメニューについては、16 ページで説明されています。

LEN は、ノート・レングスを設定します。

µTM は、マイクロ・タイミング・オフセットをコントロールします。マイナスの値では、クオンタイズされたシーケンサー・ステップを直前のトリガに近づけます。各マイクロ・タイミングのステップ値は、1/16 のシーケンサー・ステップと等しく、1/384 となります。ライブ・レコーディング・モードでノート・トリガを入力する場合、自動的にマイクロ・タイムとなります。このレコーディング・モードについての詳細は、21 ページをご覧ください。

ENV は、シーケンサーによりノート・トリガまたはトリガレス・ロックが作動した場合の、ENVF のリトリガのオン・オフをコントロールします。

ENV は、シーケンサーによりノート・トリガまたはトリガレス・ロックが作動した場合の、ENV2 のリトリガのオン・オフをコントロールします。

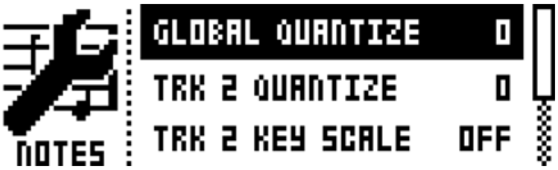
LFO は、シーケンサーによりノート・トリガまたはトリガレス・ロックが作動した場合の、LFO1 のリトリガのオン・オフをコントロールします。

LFO は、シーケンサーによりノート・トリガまたはトリガレス・ロックが作動した場合の、LFO2 のリトリガのオン・オフをコントロールします。

ノート設定

NOTES SETUP メニューでは、アクティブなトラックのノートに関連するより多くの設定が表示されます。[FUNCTION] + [NOTE] キーを押して、メニューにアクセスしてください。[UP]/[DOWN] の矢印キーまたは LEVEL ノブでメニュー間を移動します。[LEFT]/[RIGHT] の矢印キーで設定を変更します。

.



GLOBAL QUANTIZE は、すべてのトラックのすべてのマイクロ・タイム・トリガに影響を与えます。クオンタイズ値が高いほど、より多くのマイクロ・タイム・トリガがクオンタイズされます。

TRK QUANTIZE は、アクティブなトラックのすべてのマイクロ・タイム・トリガに影響を与えます。クオンタイズ値が高いほど、より多くのマイクロ・タイム・トリガはクオンタイズされます。

TRK KEY SCALE は、トラックのキー・スケールを設定します。シーケンサー・トラックのすべてのノートは、選択されたスケールに自動調整されます。この設定はノン・ディストラクティブで、例えば設定が MIN から OFF に変更された場合、ノートは元の値に応じて再生を開始します。この設定は、トランスポーズ機能を実行する場合に、トラックがどのようにトランスポーズされるかにも影響します。例えば MAJ が設定されている場合、トラックのすべてのノートがメジャー・スケールに応じてトランスポーズされます。トランスポーズ機能の詳細については、27 ページをご覧ください。

TRK KEY NOTE は、トラックのキー・ノートを設定します。この設定は、トランスポーズ機能を実行するときに、どのようにトラックがトランスポーズされるかに影響します。トランスポーズは、キー・ノートからオフセットになります。

TRK TRANSPOSABLE は、この設定がアクティブの場合に、トラックのトランスポーズを可能にします。非アクティブの場合は、トラックのトランスポーズは行えず、ドラム・サウンドを格納するトラックの関連設定を行うことができます。この設定には、クイック・コマンドが存在します。[TRANSPOSE] + [TRACK] を押して、トラックのトランスポーズ機能のオン・オフを設定します。トラック・トランスポーズについては、27 ページをご覧ください。

シーケンサーの特長

パラメーター・ロック

パラメーター・ロックは、トリガに独自のパラメーター値を持たせることができる強力な機能です。例えば、シンセ・トラックのすべてのノート・トリガは、異なるピッチやフィルター設定を持つことができます。PARAMETER ページと ARP と NOTE のメニューで表示されるすべてのパラメーターは、パラメーター・ロックが可能で、すべてのトラックに適用できます。パラメーター・ロックは、28 ページの「コピーやペースト、クリアの操作」で説明されているクリア・ロックの実行や、トリガの削除と再入力によって削除できます。

GRID RECORDING モードでパラメーター・ロックを適用するには、パラメーター・ロックを適用したいトリガの [TRIG] キーを押しながら、DATA ENTRY ノブのロックしたいパラメーターをコントロールします。ロックされたパラメーターの LCD のグラフィック表示が反転し、ロックされたパラメーター値が表示されます。ロックされたトリガの <TRIG> の LED が点滅し、トリガがパラメーター・ロックを含んでいることを示します。[TRIG] を押しながら、ロックされたパラメーターの DATA ENTRY ノブを押すことにより、シングル・パラメーター・ロックを削除します。ノート・トリガの削除と再入力によって、すべてのパラメーター・ロックはトリガから消去されます。

LIVE RECORDING モードでは、DATA ENTRY ノブを回すことで、アクティブなトラックにパラメーター・ロックを入力します。ノート・トリガは、この動作に応じてロックされ、ロックを含むトリガレス・ロックは、ノート・トリガを含まないシーケンサー・ステップとして配置されます。

LIVE RECORDING モードがアクティブの場合に、すべてのトラックのパラメーター・ロックを削除するには、[FUNCTION] + [NO/RELOAD] を押し続けます。この場合、サウンド・ロックは消去されません。リアルタイムで特定のパラメーター・ロックを削除する場合は、削除するパラメーターに対応した DATA ENTRY ノブを押しながら [NO/RELOAD] を押してください。

- 最大 128 の異なるパラメーターを、パターンでロックすることができます。パラメーターは、ロックするトリガの数とは関係なく、それを 1 つのロック・パラメーターとしてカウントします。例えば、シンセ・トラック 1 のラダー・フィルターのカットオフ・パラメーターが各シーケンサー・ステップにおいてロックされている場合、残り 127 のパラメーターをロックできます。

サウンド・ロック
サウンドは、トラックにバリエーションを追加するための非常に便利な機能で、シーケンサー・ステップごとの設定が可能です。ノート・トリガを押しながら、**LEVEL** ノブを回します。保存されたサウンドのリストが表示されます。**LEVEL** ノブでリストをスクロールし、ノート・トリガへアサインしたいサウンドを選択し、それから **[TRIG]** キーを離します。<TRIG> の LED が点滅を開始します。ノート・トリガの **[TRIG]** キーを押し続けると、割り当てられたサウンドが表示されます。

トリガ・ミュート
TRIG MUTE メニューは、各トリガごとのミュート・マスクの追加を可能にします。各トラックは、独自のミュート・トリガを持つことができます。**[FUNCTION]** ＋ **[BANK A/E]** を押してメニューを開きます。



[TRACK] キーを押して、トリガ・ミュート・トリガを追加したいトラックを選択します。TRIG MUTE メニューでアクティブなトラックに入力されたミュート・トリガは、そのシーケンサー・ステップで配置されたトリガと同じく位置します。

- トリガ・ミュートは、ノート・トリガもしくはトリガレス・ロックに素早く追加することができます。ノート・トリガもしくはトリガレス・ロックを押したまま、[BANK A / E] を押します。トリガ・ミュート・トリガは、トリガ・ミュート・メニューでの操作と同様に、シーケンサー・ステップにノート・トリガ / トリガレス・ロックとして配置されます。
- トリガ・ミュート・トリガが、トリガとしてシーケンサー・ステップへ配置された場合、ノート・トリガ / トリガレス・ロックを押すと、<BANK A/E> の LED が点灯します。
- トリガ・ミュートは、ライブ演奏を行う場合に、トラックの感触を試してみるのに適しています。例えば、より劇的に展開させたい場合、ベース・ライン・トラックの最後の 8 つのステップのみを一時的にミュートすることもできます。

アクセント

アクセント・トリガの追加は、選択されたトラックのステップのボリュームやフィルター・エンベロープの挙動やアクセントを素早く変更するのに便利です。[FUNCTION] + [BANK B/F] キーを押して、ACCENT メニューを開きます。.



アクセントを追加するトラックの [TRACK] キーを押し、トラックを選択します。LEVEL ノブを回すことでアクセント値を選択します。値が高いほど、より強いアクセント効果を得ることができます。

ACCENT メニューにアクセスしている間に、シーケンサーは、アクセント・トリガを表示します。[TRIG] キーを押すことで、アクセント・トリガを配置または削除します。シーケンサー・ステップと同じ位置にアクセント・トリガが配置されることで、ノート・トリガが強調されます。

- **アクセント・トリガは、ノート・トリガもしくはトリガレス・ロックに素早く追加することができます。ノート・トリガもしくはトリガレス・ロックを押したまま、[BANK B/F] を押します。アクセント・トリガは、ノート・トリガとしてシーケンサー・ステップに配置されます。**
- **アクセント・トリガが、トリガとしてシーケンサー・ステップへ配置された場合、ノート・トリガ / トリガレス・ロックを押すと、<BANK B/F> の LED が点灯します。**

ノート・スライド

NOTE SLIDE メニューは、2 つの別々のノート・トリガのピッチを互いにスライドさせます。[FUNCTION] + [BANK C/G] を押すことで、メニューを開きます。このメニューがアクティブな状態で [TRIG] キーを押すことで、ノート・スライド・トリガがシーケンサに配置されます。



ノート・スライド・トリガがノート・トリガとして同一ステップに配置されると、前のノート・トリガのピッチがスライドします。例えば、トラックが 2 つのノート・トリガを含み、ノート・スライド・トリガが 2 つ目のノート・トリガとして同一ステップに配置された場合、最初のノート・トリガのピッチは、2 番目のノート・トリガのピッチにスライドします。ピッチ・スライドのスピードは、OSC2 メニューの 2 番目のページにある SLI パラメーターによって決定されます。このパラメーターの詳細については、“ 付録 A：シンセ・トラック・パラメーター ” をご覧ください。

- **ノート・トリガを押しながら、[BANK C / G] を押すと、ノート・スライドは、ノート・トリガに素早く追加されます。ノート・スライド・トリガは、ノート・トリガとしてシーケンサー・ステップに配置されます。**
- **ノート・スライド・トリガが、トリガとしてシーケンサー・ステップへ配置された場合、トリガ・ロックを押すと、<BANK C/G> の LED が点灯します。**

パラメーター・スライド

PARAMETER SLIDE メニューは、2 つの別々のノート・トリガもしくはトリガレス・ロックに関するパラメーター値が互いにスライドさせます。[FUNCTION] + [BANK D/H] キーを押してメニューを開きます。このメニューがアクティブな状態で [TRIG] キーが押されたとき、スライド・トリガがシーケンサーに配置されます。



パラメーター値を 2 つのトリガ間でスライドするためには、いずれかのトリガがロックされている必要があります。ロックされたパラメーター値は、ロック解除された値へスライドし、その逆の場合も同様にスライドします。パラメーター値のスライドを行うには、パラメーターをスライドする同一のシーケンサー・ステップにスライド・トリガを配置します。スライドのスピードは、現在のテンポに相対して、次のトリガに達したときにスライドが完了します。いくつかのパラメーター値を同時にスライドすることができます。

- **パラメーター・スライドは、ノート・トリガまたはトリガレス・ロックに素早く追加できます。ノート・トリガまたはトリガレス・ロックを押しながら、[BANK D/H] を押してください。パラメータースライド・トリガは、ノート・トリガ / トリガレス・ロックと同じシーケンサー・ステップに配置されます。**
- **パラメーター・スライド・トリガが、トリガとしてシーケンサー・ステップへ配置された場合、ノート・トリガ / トリガレス・ロックを押すと、<BANK D/H> の LED が点灯します。**

スイング

リズミカルなグルーヴを可能にする、パターンのスイングを設定します。[FUNCTION] + [KEYBOARDB1] を押して、このメニューにアクセスします。



トラック・トランスポーズ

トランスポーズ機能は、トラックを上下にトランスポーズすることができ、片手で操作を行うためにロックすることが可能です。トランスポーズ機能によって影響されるトラックは、NOTES SETUP メニューで設定されます。詳細は、24 ページの「ノート設定」をご覧ください。この操作のためのクイック・コマンドも存在します。[TRANSPOSE] + [TRACK] を押して、トラックのトランスポーズ機能のオン・オフを設定します。[TRANSPOSE] キーを押すと、トランスポーズがアクティブなトラックの <TRACK> の LED が点灯します。

トランスポーズするには、[TRANSPOSE] を押しながら、[KEYBOARD] キーを押します。[UP] または [DOWN] を押して、異なるオクターブ・レンジへの移調を選択します。[TRANSPOSE] を押している間に表示される小さなポップアップ・ウィンドウが、半音単位でどれだけトランスポーズされているかを表示します。

トラックのノートは、TRK KEY NOTE と TRK KEY SCALE 設定に応じてトランスポーズされます。詳細は、24 ページのノート設定メニューで説明されています。トランスポーズは、セット・キー・ノートへのオフセットで、つまりすべてのノート・トリガは、トランスポーズされた後も、元のノート値を保持します。例えば、キー・ノートが C に設定されているトラックで、トランスポーズで [KEYBOARD F1] を押した場合は、半音で +5 トランスポーズされたことになります。

トランスポーズ・オフセットは、永久的に適用させることができます。トランスポーズを実行した後、[TRANSPOSE] + [YES/SAVE] を押します。これにより、トランスポーズ・ノート・トリガの値は、永久的に適用されます。

[FUNCTION] + [TRANSPOSE] が押されると、トランスポーズ・ロック機能が有効になります。トランスポーズ・ロックは、<TRANSPOSE> の LED が完全点灯によって示されます。この機能がアクティブな場合、[TRANSPOSE] キーが絶えず押されている状態となり、片手のみで [KEYBOARD] キーを押してトランスポーズを行うことができます。

- **トランスポーズ・ロックがアクティブの場合、[KEYBOARD] キーはサウンドを再生したり、ノート・トリガのノート値を設定することができませんのでご注意ください。トランスポーズ・ロックがアクティブな場合の [KEYBOARD] キーの二次機能として、KIT と SOUND メニューなどの各メニューへアクセスすることができます。**

ディストラクティブ・トランスポーズ
トラックは、ディストラクティブにトランスポーズが可能で、ノート・トリガのノート値を永久的に改変します。[TRACK] + [UP]/[DOWN] を押します。ノート・トリガは、選択された半音の値で上下にトランスポーズされます。トラックは、トランスポーズを行うためにアクティブである必要はありません。

コピーやペースト、クリアの操作
パターンやトラックページ、トラックとトリガは、コピーとペースト、クリアを行うことができます。

アクティブなパターンは、同じバンク内の別のパターン、または別のバンクのパターンにコピーすることができます。パターンのコピー操作を実行するには、GRID RECORDING モードが、非アクティブの状態で [FUNCTION] + [REC] を押します。ペースト先のパターンを選択し、[FUNCTION] + [STOP] を押してペーストします。再度 [FUNCTION] + [STOP] を押すことでペーストをキャンセルできます。[FUNCTION] + [PLAY] を押して、パターンをクリアします。再度 [FUNCTION] + [PLAY] を押して、クリアをキャンセルできます。

個々のトラックは、パターンと同じ方法でコピーやペースト、クリアされます。これを行うには、GRID RECORDING モードがアクティブである必要があります。

トラック・ページは、最大 4 ページのシーケンサー・ステップで構成されます。トラックのコピー / ペースト / クリアと同様にアクティブなトラック・ページにのみ反映させることができ、GRID RECORDING モードをアクティブにする必要があります。[PAGE] キーを押して、これを実行するトラック・ページを選択します。[PAGE] + [REC] を押してコピーします。ペーストを実行するトラック・ページを選択し、[PAGE] + [STOP] を押してペーストします。再度 [PAGE] + [STOP] を押すことで、元に戻します。[PAGE] + [PLAY] を押して、アクティブなトラック・ページをクリアします。再度 [PAGE] + [PLAY] を押すことで、操作を元に戻します。

すべてのパラメーター・ロック設定で作成されたトリガも、同様にコピーやペースト、クリアすることができます。GRID RECORDING モードがアクティブの状態で、トリッグを押しながら [REC] を押して、コピーを実行します。ペースト先の [TRIG] キーを押しながら [STOP] を押して、ペーストを実行します。1 つ以上のトリガをコピーすることも可能です。いくつかのトリガを押しながら、[REC] を押します。選択する最初のトリガが、スタート・ポイントに設定されます。これをペーストする場合、コピー元のトリガの配置が反映されます。ペースト先の [TRIG] キーを押しながら、[STOP] を押すことで、ペーストを実行します。1 つ、もしくはそれ以上のトリッグを押しながら、[PLAY] を押し、トリガ・ロックをクリアします。

クイック・セーブとリロードのコマンド
キットやサウンド、トラック、パターン、ソングは、瞬時に保存とリロードすることができます。リロードすると、設定は、保存された状態に戻ります。

キットをクイック・セーブするには、[YES/SAVE] + [KEYBOARD C1] を押します。このコマンドは、12 ページで説明されている、KIT メニューの SAVE KIT コマンドと同様です。

サウンドをクイック・セーブするには、[YES/SAVE] + [KEYBOARD D1] を押します。これによりアクティブなトラックの PARAMETER ページ設定は、保存されます。このコマンドは、15 ページで説明されている KIT メニューの SAVE TRACK SOUND コマンドと同様です。

トラックをクイック・セーブするには、[YES/SAVE] + [KEYBOARD E1] を押します。操作は、29 ページで説明されている SAVE TRACK コマンドと同様です。

パターンをクイック・セーブするには、[YES/SAVE] + [KEYBOARD F1] を押して、アクティブパターンをリロードします。操作は、21 ページで説明されている SAVE PATTERN コマンドと同様です。

ソングをクイック・セーブするには、[YES/SAVE] + [KEYBOARD G1] を押します。このコマンドは、34 ページで説明されている SONG メニューの SAVE コマンドと同様です。

キットをクイック・リロードするには、[NO/RELOAD] + [KEYBOARD C1] を押します。このコマンドは、12 ページで説明されている KIT メニューの RELOAD KIT コマンドと同様です。

サウンドのクイック・リロードするは、[NO/RELOAD] + [KEYBOARD D1] を押します。アクティブなトラックのPARAMETER ページ設定は、保存された状態に戻されます。基本的に新たにサウンドをロードする場合と同様です。SOUND メニューの LOAD TRACK SOUND コマンドは、15 ページで説明されています。

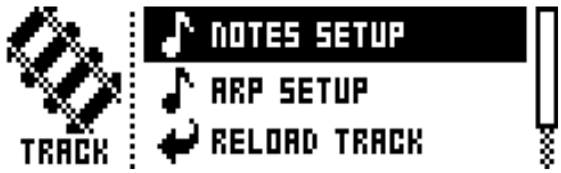
トラックをクイック・リロードするには、[NO/RELOAD] + [KEYBOARD E1] を押します。操作は、29 ページで説明されている RELOAD TRACK コマンドと同様です。

パターンをクイック・リロードするには、[NO/RELOAD] + [KEYBOARD F1] を押して、アクティブなパターンをリロードします。操作は、21 ページで説明されている RELOAD PATTERN コマンドと同様です。

ソングをクイック・リロードするには、[NO/RELOAD] + [KEYBOARD G1] を押します。コマンドは、34 ページで説明されている SONG メニューの RELOAD コマンドと同様です。

トラック・メニュー

このメニューでは、アクティブなトラックの設定に関連するオプションが表示されます。[FUNCTION] + [KEYBOARD E1] を押し、メニューを開きます。[UP]/[DOWN] の矢印キーまたは LEVEL ノブを使用してリスト内を移動します。[YES] を押してオプションを選択します。[TRACK] キーを押すことにより、メニューが反映されるトラックを変更します。



NOTES SETUP は、主にトラックのクオンタイズとスケールに関連する設定が含まれています。これは、[FUNCTION] + [NOTE] を押してアクセスするメニューと同様です。NOTES SETUP メニューは、24 ページで説明されているノート設定をご覧ください。

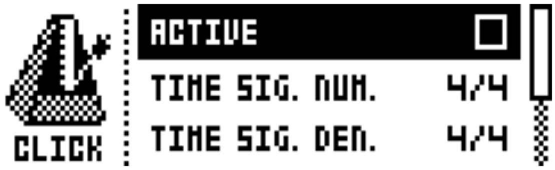
ARP SETUP は、トラック・アルペジエーターの設定が含まれています。これは、[FUNCTION] + [ARP] を押してアクセスするメニューと同様です。ARPEGGIATOR SETUP メニューは、23 ページで説明されています。

RELOAD TRACK は、アクティブなトラックをリロードします。トラックが自動的に保存されるパターンの一部として、元の自動保存された状態、もしくは SAVE TRACK コマンドを使用した特定の保存状態にリロードします。[NO/RELOAD] + [KEYBOARD E1] を押して、RELOAD TRACK を実行します。

SAVE TRACK は、アクティブなトラックに加えた変更を保存します。これは、パターンの変更で行われる自動保存に加えて利用可能な特別機能です。この機能は、納得のいくトラックができあがり、このトラックを元にさらに作業を進めた時、再度元の状態に戻したいと言う場合に非常に有効です。トラックをリロードするとき、自動保存されたパターンの状態には戻りませんが、手動で保存した状態には戻ります。SAVE TRACK コマンドへのショートカットは、[YES/SAVE] + [KEYBOARD E1] を押します。

クリック・トラック

CLICK TRACK メニューは、Analog Four の内蔵メトロノームをコントロールします。[FUNCTION] + [KEYBOARD A1] を押し、メニューを開きます。[UP]/[DOWN] 矢印キーまたは LEVEL ノブを使用して、設定リストを選択します。[LEFT]/[RIGHT] を押して、ハイライトされた設定を変更します。



ACTIVE は、メトロノームをアクティブ / 非アクティブにします。

TIME SIG. NUM は、メトロノームの拍子に関するノートの尺度をコントロールします。

TIME SIG. DENOM は、メトロノームの拍子に関するビートの尺度をコントロールします。

PREROLL は、シーケンサーが再生を開始する前にどれだけのバーでメトロノームを鳴らすかを設定します。この設定は、LIVE RECORDING モードが初期化されたときに限り機能します。

VOLUME は、クリックのボリュームをコントロールします。

スケール・メニュー

ここでは、アクティブなパターンの一般的な長さとタイミングが設定されます。Scale メニューには、2 つのモードが存在します。NORMAL モードでは、すべてのトラックは、同じ長さを共有しています。ADVANCED モードでは、各トラックで異なる長さを持つことができます。[FUNCTION] + [PAGE] を押すことで、SCALE SETUP メニューにアクセスします。設定を選択するために [LEFT] と [RIGHT] の矢印キーを使用します。[UP] と [DOWN] キーを使用して、それぞれのモードの選択とパターン・レングスの設定を行います。パターン・レングスの設定には、LEVEL ノブを使用できます。

ノーマル・モード

デフォルトでは、ノーマル・モードとなります。このモードでは、パターンのすべてのトラックは、同じ長さや拍子を共有します。NORMAL 設定がアクティブであるとき、この画面が表示されます。SCALE と PATTERN の 2 つが存在します。



PATTERN では、パターンの長さや拍子が設定されます。左側の数字は、パターンのステップ数を設定します。パターンで設定可能なステップの最大数は、右側のパラメーターで設定されている長さにより異なります。右側のパラメーターは、16、32、48、64 ステップのいずれかになります。パターンで 17 ステップ以上が使用されている場合、GRID RECORDING モードでは、異なるパターン・ページ間を切り替えるために [PAGE] キーを使用します。

右端の小さな数字で表示されるパラメーターは、パターンの拍子をコントロールします。パターンの拍子は、1/8X、1/4X、1/2X、3/4X、1X、2X 3/2X の 7 つの設定を提供します。1/8X の設定は、設定されたテンポの 8 分の 1 でパターンを再生します。3/4X は、テンポの 4 分の 3 でパターンを再生します。

- **パターンの長さを伸長するとき、トリガは自動的にコピーされます。例えば、2 ページから構成されたパターンを 4 ページに増やす場合、追加された 2 つのパターン・ページは、最初の 2 つのパターン・ページがコピーされます。**
- **パターンの全体の長さを素早く変更するために、[PAGE] キーを押します。[TRIG] キーを押して、パターンのステップ数を素早く変更できます。**
- **2X の拍子設定は、32 分音符のステップ・シーケンサーの基本解像度を高めるために有効です。**
- **3/4X は、同じ BPM に設定された他の楽器と一緒に、Analog Four を 3 連符で再生するときに有効です。**

アドバンス・モード

このモードでは、パターンのトラックは、個別の長さを割り当てることができます。[LEFT] の矢印キーを使用して、SCALE 項目を移動します。[DOWN] の矢印キーを使用して、ADVANCED を選択します。ADVANCED モードでは、SCALE、TRACK、MASTER の 3 つの項目が存在します。



このモードで行われたスケール設定は、アクティブなトラックに限り影響を与えます。[TRACK] キーを押して、スケール設定を編集するトラックを選択します。

TRACK 項目は、NORMAL モードの PATTERN 項目と同様ですが、トラックごとに動作します。

MASTER 項目は、ADVANCED モードでのみ利用可能です。ADVANCED モードでは、すべてのトラックがリスタートされるまでに、パターンが何ステップ再生されるかを選択でき、さらにタイム・シグネチャーを持つことができます。左端の項目で、すべてのトラックがリスタートされるまでに、パターンが何ステップ再生されるかを設定します。INF の設定は、リスタートせずにパターンのトラックを無限にループさせます。この設定は、チェイン・パターンが再生を開始する前に、アクティブなパターンがどれだけの長さで再生するかに影響する事に注意してください。右端の設定では、パターンの全般的な拍子を設定します。

- **INF を選択した場合、アクティブ・パターンは、無限に再生され、他のパターンへ変更されません。**

- **MASTER LENGTH を 16 単位で設定する場合は、[FUNCTION] + [UP]/[DOWN] を押します。**

チェインとソング

チェインは、いくつかのパターンからなる配列です。チェインとパターンは、ソングで使用することができます。

256 のパターン・エントリは、64 のチェインまで利用可能で、これは例えば 1 つのチェインが 256 のパターンから、もしくは 2 つのチェインがそれぞれ 128 のパターンから構成されることを意味します。ほとんどのシナリオでは、1 つのチェインで 2-8 のパターンを使用することで十分です。

本質的には、1 つのソングは、常にアクティブで作業中となります。ソングは、主にソングの行と 1 つのスクラッチ・パッドの行の 2 つのエントリ形式から構成されます。アクティブなソングは、LCD の左下の一部に表示されます。スクラッチ・パッドがアクティブな場合には、グラフィックに、"__ : " と表示されます。スクラッチ・パッドの行は、デフォルトでソングの始めに配置され、実際のソングの行はスクラッチ・パッドの後に配置されます。

各ソングは、チェインもしくはパターンを含めることができます。これらのエントリは、ソングと一緒に保存されます。スクラッチ・パッドもまた、チェインやパターンを含めることができますが、ソングの一部として保存されません。スクラッチ・パッドは、既にプログラムされたソングに影響を与えることはなく、チェインやパターンを試すために使用されます。

チェイン

アクティブなソング、またはスクラッチ・パッドは、チェインで構成され、チェインのすべてのパターンは、[CHAIN] を押して CHAIN モードをアクティブにすると再生されます。SONG モードが非アクティブの場合、現在アクティブなパターンが繰り返し再生されます。チェインを構成する各パターンは、LCD スクリーンの左下に表示されます。

チェインは、CHAIN モードが非アクティブな場合でも作成することができます。[CHAIN] + [LEFT]/[RIGHT] を押して、チェイン・カーソルを移動させせます。チェインは、アクティブなパターンの前後に配置することができます。例えば、チェイン・カーソルがハイライトされたパターンの前に置かれた場合、[BANK X/X] + [TRIG] を押すことで、このパターンの前に新たなパターンを挿入できます。チェイン・カーソルがハイライトされたパターンを選択している場合、[BANK X/X] + [TRIG] を押すことでハイライトされたパターンは置き換えられます。CHAIN モードをアクティブにすると、チェインのパターンが順番に再生されます。チェインの最後のパターンが再生されると、最初のパターンに戻りループ再生されます。

チェイン・パターンの消去は [CHAIN] + [NO/RELOAD] で実行されます。チェイン・パターンは、チェイン・カーソルの位置に応じて消去されます。1 つのパターンを消去する場合は、消去するパターンをハイライト表示にして、消去コマンドを実行します。また、チェイン・カーソルがパターンの間に位置した場合、カーソルの前に配置されたパターンはすべて消去されます。

[FUNCTION] + [CHAIN] を押すことで、新たなブランクとしてスクラッチ・パッドの行を作成します。この場合ソング・エディット・メニューを開くと、作成したスクラッチ・パッドがソング・リストの行の最下部に 1 つのステップとして追加されていることが確認できます。以前のスクラッチ・パッドの行は、ソング 00 として追加されます。

- **CHAIN モードは、ライブ即興演奏において理想的なモードです。CHAIN モードが非アクティブで、アクティブなパターンだけがループしている間にチェインを作成し、CHAIN モードをアクティブにしてください。CHAIN モードを終了して、再度 1 つのパターンだけをループさせせます。新しいチェインを作成するためにパターンを追加して、CHAIN モードを再度アクティブにしてください。[FUNCTION] + [CHAIN] を押して新たなチェインを作成することで、即興のソングを制作することができます。**

ソング

ソングは、基本的にパターンとそれらのパターンにより構築されたチェインで構成されます。SONG モードを入力するには、[SONG] キーを押します。<SONG> の LED は、点灯し、SONG モードがアクティブであることを示します。アクティブなソングは、項目ごとに再生を開始します。アクティブなソングの行がスクラッチ・パッドの行の場合、ソングの行 00 はスクラッチ・パッドの再生後に再生されます。スクラッチ・パッドの行の位置は、ソング内で移動することはできません。現在再生中のソング項目は、LCD 画面の左下に表示されます。

ソング・エディット・メニュー

ソングは、[FUNCTION] + [SONG] を押すことで、SONG EDIT メニューにアクセスします。



ソングは、先頭から行ごとに再生され、終わりに向かって移動します。ソングがチェインを含んでいる場合、チェインのすべてのパターンが再生されてから、次の行を再生します。ソングの再生位置は、反転されたパターン・ナンバー表示によって示されます。LCD 画面の右上に、BPM と再生されたバーとビートが表示されます。

ソングの行だけでなく、ソングに割り当てられたパターン間を移動するには、[ARROW] キーを使用します。ソング・カーソルがパターンを選択している場合は、パターン番号が四角で囲まれます。ソング・カーソルがパターンの前後に配置されている場合は、細い線で表示されます。

ソングの再生を最初から開始するには、[STOP] を二度押します。ソングの再生位置は、自動的に最初の行に存在するスクラッチ・パッドに移動されます。ソングは、任意のパターンから再生を開始することができます。[ARROW] キーを使用してソング・カーソルを移動させ、パターン位置をハイライト表示します。[YES/SAVE] を押して、この位置を選択します。グラフィックが反転し、ソングの再生位置であることを示します。[PLAY] キーを押して、この位置からソングの再生を開始します。

ソングの行の追加とパターンとチェインの割り当て

[FUNCTION] + [YES/SAVE] を押し、ソングの行を追加します。前のソングの行の後ろに、自動的に新しい行が挿入されます。ソングの行に別のパターンを割り当てるには、[ARROW] キーを使用してソング・カーソルで、割り当てを行うパターンを選択し、ハイライト表示させます。それから [BANK X/X] キー + [TRIG] キーを押します。一般的なパターンの割り当て手順は、19 ページの「パターンの選択」で説明されている、パターンの選択と同様です。

ソングの行にチェインを追加するには、チェインを追加するソングの行を選択し、[LEFT]/[RIGHT] の矢印キーを使用してソング・カーソルでパターンを追加する場所へ移動します。この場合、ソング・カーソルが細い縦線を形成していることを確認してください。[BANK X/X] キー + [TRIG] キーを押して、チェインに追加するパターンを選択します。

チェインのパターンを削除する場合は、ソング·カーソルで削除するパターンをハイライト表示させ、[FUNCTION] + [NO/RELOAD] を押します。

ソングの行が、チェインを含んでいる場合、個々のパターンを並べ替えることができます。ソング・カーソルでパターンを選択しハイライト表示させ、[FUNCTION] + [LEFT]/[RIGHT] キーを押します。

ソングの行を上下に移動させる場合は、ソング・カーソルで入れ替えを行うソングの行へ移動し、[FUNCTION]+ [UP]/[DOWN] キーを押します。

ソングの行を削除する場合は、ソング・カーソルで削除するソングの行へ移動し、[FUNCTION] + [NO/RELOAD] キーを押します。

リピートの追加、ミュートとトランスポーズ情報

ソングの行とパターンやパターンがアサインされた行には、さまざまな追加情報を入力できます。

ソングの行の左側では、このソングの行を何回リピートさせるかを設定できます。DATA ENTRY ノブ A を回し、ソングの行が、何回リピートされるかを設定します。

ハイライト表示されたパターンで [FUNCTION] + [TRACK] を押すと、トラックをミュートをすることができます。LCD 画面の右側のミュート・グラフィックは、どのトラックがミュートされているかを表示しています。

パターンをソング・カーソルでハイライト表示にして、[TRANSPOSE] + [KEYBOARD] を押すと、トランスポーズすることができます。これにより、ソング・トランスポーズは自動化されますが、トラック・トランスポーズと同様に動作します。トラック・トランスポーズ機能は、27 ページで説明されています。

ソング・メニュー

SONG メニューでは、ソングの保存やロード、リネームなど行うことができます。[FUNCTION] + [KEYBOARD G1] を押して、メニューにアクセスします。



RELOAD は、アクティブなソングをリロードします。これにより、保存された状態に復元されます。このコマンドへのショートカットは、[NO/RELOAD] + [KEYBOARD G1] を押します。

LOAD は、保存されたソングをロードできるメニューを開きます。

SAVE は、アクティブなソングを 16 個のソング保存場所の 1 つへ保存します。このコマンドへのショートカットは、[YES/SAVE] + [KEYBOARD G1] を押します。

CLEAR は、すべてのコンテンツからアクティブなソングをクリアします。

EDIT は、EDIT メニューを開きます。[FUNCTION] + [SONG] を押してアクセスするのと同じメニューです。このメニューの詳細については、32 ページをご参照ください。

RENAME は、アクティブなソングをリネームできるメニューを開きます。

グローバルメニュー

GLOBAL メニューは、グローバル · レベルで Analog Four に影響を与える設定を提供しています。グローバル · チューン、MIDI と CV の設定は、ここで作られています。それぞれが個々の設定を持つことができる最大 4 つのグローバル · スロットが用意されています。

[FUNCTION] + [KEYBOARD C2] を押して、グローバル · メニューにアクセスします。[UP]/[DOWN] または、LEVEL ノブを使用してリストをスクロールします。[YES/SAVE] を押すことにより、ハイライト表示されたメニューを開きます。



グローバル・スロット

４つのグローバル · スロットから使用するグローバル · スロットを選択します。[LEFT]/[RIGHT] の矢印キーを使用して、アクティブなスロットを選択します。グローバル · スロットに加えられたすべての変更が自動的に保存されます。

シンセ設定

ここでは、Analog Four のマスター · チューンとキャリブレーション設定が表示されます。



MASTER TUNE は、アナログ · オシレーター用のマスター · チューンを設定します。デフォルトの設定は、440.0 Hz です。

CALIBRATION は、オシレーターやパルス · ワイズ、フィルターのキャリブレーション · ルーチンを開始します。このオプションを選択した後、キャリブレーションの確認を求めるポップアップ · ウィンドウが表示されます。[YES/SAVE] を押して、キャリブレーションを続行します。キャリブレーション · ルーチンは、完了するまでにしばらくの時間がかかるので、ご注意ください。

- **Analog Four は、工場出荷時にキャリブレートされています。Elektron のサポートによって特別に指示がない限り、再度キャリブレートを行う必要はありません。**

MIDI 設定

このメニューでは、Analog Four の MIDI 機能を扱う様々なサブ · メニューが表示されます。



MIDI シンク

Analog Four が MIDI クロックとトランスポート・コマンドをどのように受信もしくは送信するかをコントロールします。[LEFT]/[RIGHT] の矢印キーを使用して、設定を変更します。



CLOCK RECEIVE がアクティブの場合、外部装置から送信された MIDI クロックを Analog Four へ応答させます。

CLOCK SEND がアクティブの場合、Analog Four は MIDI クロックを送信します。

TRANSPORT RECEIVE がアクティブの場合、Analog Four は再生や停止、継続、再生位置ポインタのようなシステム・リアル・タイム・メッセージを応答します。

TRANSPORT SEND がアクティブの場合、Analog Four は再生や停止、継続、再生位置ポインタのようなシステム・リアル・タイム・メッセージを送信します。

MIDI ポート設定

MIDI ポート関連の設定は、このメニューで表示されます。[LEFT]/[RIGHT] の矢印キーを使用して、設定を変更します。



TURBO SPEED は、Analog Four MIDI IN/OUT ポートが、ターボ・プロトコル対応機器の MIDI OUT/IN ポートに接続されている場合、使用する MIDI 転送速度のマルチ・プライヤーを設定します。[LEFT]/[RIGHT] の矢印キーは、マルチ・プライヤーを選択するために使用されます。AUTO を選択した場合は、[YES/SAVE] を押してターボ・スピード・ネゴシエーションを開始します。

OUT PORT FUNCTIONALITY は、どの種類の信号を MIDI OUT ポートから送るかを選択します。

- MIDI は、ポートが MIDI データを送ることを可能にします。
- DIN 24 は、ポートに DIN 24 シンク・メッセージを送信させます。このオプションを選択した場合、MIDI データは送信できません。
- DIN 48 は、ポートに DIN 48 シンク・メッセージを送信させます。このオプションを選択した場合、MIDI データは送信できません。

THRU PORT FUNCTIONALITY は、MIDI THRU ポートがどの種類の信号を送るべきかを選択します。OUT PORT FUNCTIONALITY と同様の設定が存在します。

INPUT FROM は、Analog Four が MIDI データを受信するソースを選択します。

- DISABLED は、Analog Four にすべての入力 MIDI データを無視させます。
- MIDI は、Analog Four に MIDI IN ポートに送信された MIDI データのみ有効にします。
- USB は、Analog Four に USB ポートに送信された MIDI データのみ有効にします。
- MIDI + USB は、Analog Four に MIDI IN と USB ポートの両方に送信された MIDI データを有効にします。

OUTPUT TO は、Analog Four が MIDI データを送信する先を選択します。

• DISABLED は、Analog Four のあらゆる MIDI データの送信を停止します。

• MIDI は、Analog Four の MIDI OUT ポートからのみ MIDI データを送信させせます。

• USB は、Analog Four の MIDI データを USB ポートからのみ送信させせます。

• MIDI+USB は、Analog Four の USB と USB ポートの両方から MIDI データを送信させせます。

- **INPUT FROM もしくは OUTPUT TO の設定で MIDI + USB が選択されている場合、MIDI のデータ転送は、USB の速度を制限することがあります。**

PARAM OUTPUT は、どの種類の MIDI メッセージを **DATA ENTRY** ノブが送るかを選択します。送信される CC / NRPN のパラメーターの詳細については、" 付録 D: MIDI" を参照してください。

• OFF は、ノブからのすべての MIDI メッセージの送信を停止します。

• NRPN は、ノブから NRPN MIDI メッセージを送信させせます。

• CC は、ノブから CC MIDI メッセージを送信させせます。

ENCODER CFG は、**DATA ENTRY** と **LEVEL** ノブの MIDI データの送信についてコントロールします。INT に設定した場合、MIDI データは送信されません。

KEYBOARD CFG は、**[KEYBOARD]** キーの MIDI ノート・データの送信についてコントロールします。INT に設定した場合、MIDI データは送信されません。

RECEIVE NOTES がアクティブの場合、外部 MIDI キーボードを使用して Analog Four を再生することを可能にします。

RECEIVE CC/NRPN がアクティブの場合、CC/NRPN データを送信する外部 MIDI デバイスからの Analog Four のパラメーターをコントロールすることを可能にします。

MIDI チャンネル

このメニューは、MIDI チャンネルの設定を処理します。

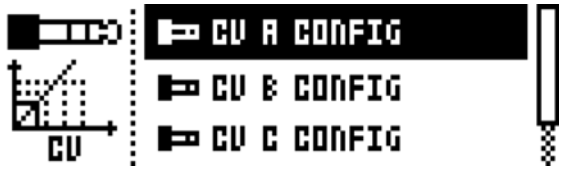


AUTO CHANNEL は、現在アクティブなトラックへのアクセス権を与える MIDI チャンネルを選択します。Analog Four に接続した外部 MIDI キーボードがこのチャンネルで MIDI データを送信する場合、キーボードがアクティブなトラックをコントロールします。これは、例えば異なるサウンドを再生させるために、アクティブなシンセ・トラック間の迅速な変更に有効です。

トラック 1-4 や FX、CV は、シンセや FX、CV トラックをコントロールする専用 MIDI トラックを選択します。OFF 設定は、トラックに受信 MIDI メッセージを無視させせます。

CV 設定

ここで、CV/Gate アウトプット信号がコントロールされます。



CV A-D 設定

それぞれは同一のサブページであり、それぞれの CV/Gate アウトプットに 1 つずつ存在します。このメニューで使用可能なパラメーターのリストは、メニュー設定に依存します。このメニューは、CV/Gate のアウトプットに対応しており、[FUNCTION] + [CV A-D] を押すことによって開かれます。



TYPE は、アウトプットから送信されるべき信号の種類を選択します。PITCH V/OCT や PITCH HZ/V、VALUE LIN、TRIG GATE、CLOCK の設定を行うことができます。

- GROUNDED は、CV アウトプットをオフにします。
- PITCH V/OCT は、ほとんどのアナログ・シンセサイザーに適用されている「volt per octave standard」を使用した機器のピッチをコントロールするのに選択されます。
- PITCH HZ/V は、例えば古いコルグとヤマハのシンセに適用されている「herz per volt standard」を使用した機器のピッチをコントロールするのに選択されます。
- VALUE LIN は、任意のコントロール電圧の送信に使用され、例えば、アナログ機器のすべての電圧コントロールされたパラメーターをシーケンスまたはパラメーター・ロックするときに便利です。
- TRIG は、ノート・イベントの開始時にショート・トリガ・パルスを送信するために使用されます。
- GATE は、すべてのノート・レングスにおいて、より長いパルスを与えます。

MIDDLE C は、TYPE パラメーターのために PITCH V/OCT が選択されるときのみ表示されます。これはピッチ CV の全体のチューニングを設定します。

TUNING は、TYPE パラメーターが何かに設定されたときに表示されますが、PITCH V/OCT は表示されません。これはピッチ CV の全体のチューニングを設定します。

V/OCT は、TYPE パラメーターのために PITCH V/OCT が選択されたときのみ表示されます。これは、信号のピッチ幅を設定します。

OCTAVE WIDTH は、TYPE パラメーターが何かに設定されたときに、表示されますが、PITCH V/OCT は表示されません。これは、信号のピッチ幅を設定します。

TRIG POLARITY は、信号が送られたトリガの極性を選択します。V-TRIG または、S-TRIG のオプションが存在します。V-TRIG（電圧トリガ）は、0V からユーザー定義の電圧レベルへ可変するトリガ・パルスです。S-TRIG（ショート・サーキット・トリガ）は、ユーザー定義の電圧レベルから 0V へと逆に可変します。V-TRIG は、最も一般的なトリガの極性です。S-TRIG は、古いムーグやコルグ、ヤマハのシンセサイザーで主に使用されています。

TRIG LEVEL は、ボルトで測定される送信されたトリガのレベルを選択します。+5 V の標準ロジック・レベルは、ほとんどの機器をトリガするのに十分ですが、いくつかは反応するのにより高い電圧を必要とするかもしれません。

TRIG LENGTH は、送信されたトリガ信号の長さを選択します。いくつかの機器では、最短パルスで正しくトリガされない場合がありますので、トリガを行う場合に、もし問題が発生したら異なる長さをお試しください。

VALUE MIN は、CV / Gate アウトプットから送信される最小許容電圧レベルを設定します。

VALUE MAX は、CV/Gate アウトプットから送信される最高許容電圧レベルを設定します。通常、+/- 15 V の電圧をアナログ機器に接続することは危険ではありませんが、不明な場合はこれらの制限を適用してください。

SYSEX ダンプ

SYSEX DUMP メニューでは、キットやサウンド、パターン、ソング、グローバル・スロットは、送信および受信することができます。[UP]/[DOWN] または LEVEL ノブを使って、メニュー・オプションを選択します。[YES/SAVE] を押して、ハイライト表示されたメニュー選択を開きます。



SysEx データを受信または送信する際、Analog Four の MIDI ポートまたは USB ポートは、外部の送信 / 受信デバイスに接続される必要があります。外部デバイスがコンピュータである場合、Elektron のウェブサイトからダウンロードできる弊社の無料の SysEx ユーティリティ C6 を使用することをおすすめします。

- **Analog Four が MIDI ポートを通じて SysEx データを送信または受信している場合、最大 10倍の転送速度にするために Elektron TM-1 USB MIDI インターフェースを使用します。**

SYSEX 送信

ここでは、キットやサウンド、パターン、ソング、グローバル・スロットは、Analog Four の MIDI OUT ポートまたは USB ポートを介して外部デバイスに送信することができます。



左側のカラムは、バックアップする内容を選択します。[LEFT] の矢印キーを使用してカラムを選択します。[UP]/[DOWN] キーまたは LEVEL ノブを使って、カラムを移動します。SysEx データは、左のカラムで選択した項目に応じて変更する、右側に位置するカラムの選択肢を送信します。このカラムにアクセスするには、[RIGHT] の矢印キーを押します。[UP]/[DOWN] キーまたは LEVEL ノブを使用して、何を送信すべきか選択します。[YES/SAVE] を押して、SysEx の送信を開始します。

ALL は、さまざまなデータの完全バックアップを行う可能性を提供します。

- FULL BACKUP は、すべてのキット、サウンド、パターン、ソング、グローバル・スロットを受信デバイスへ送信します。

- ALL KITS は、すべてのキットを受信デバイスに送信します。

- ALL PATTERNS は、すべてのパターンを受信デバイスに送信します。

• ALL SONGS は、すべてのソングを受信デバイスに送信します。

• ALL SETTINGS は、すべてのグローバル・スロットを受信デバイスに送信します。

KIT

• ACTIVE KIT は、現在アクティブなキットのみ受信デバイスに送信します。

• KIT の 01-128 は、選択したキットを受信デバイスに送信します。

SOUND は、選択したサウンドを受信デバイスに送信します。

PATTERN は、選択されたパターンを受信デバイスに送信します。

SONG は、選択したソングを受信デバイスに送信します。

GLOBAL は、選択したグローバル・スロットを受信デバイスに送信します。

- **定期的にデータをバックアップすることをおすすめします！**
- **SysEx 送信を開始する前に、まず、受信デバイスがデータの送信を待っていることを確認してください。**

SYSEX 受信

ここでは、キットやサウンド、パターン、ソング、グローバル・スロットは、Analog Four の MIDI IN ポートまたは USB ポートを介して外部デバイスから受信することができます。



左側のカラムは、何を受信するかを選択します。[LEFT] の矢印キーを使用してカラムを選択します。[UP]/[DOWN] キーまたは LEVEL ノブを使って、カラムを移動します。SysEx データは、左のカラムで選択した項目に応じて変更する、右側に位置するカラムの選択肢を受信します。このカラムにアクセスするには、[RIGHT] の矢印キーを押します。[UP]/[DOWN] キーまたは LEVEL ノブを使用して、何を受信すべきか選択します。[YES/SAVE] を押して、SysEx の受信処理を開始します。Analog Four は、受信データのリスニングを開始します。リスニングを停止するには、[NO/RELOAD] を押します。

KIT

• ACTIVE KIT は、現在アクティブなキットのみ受信デバイスに送信します。

• KIT の 01-128 は、選択したキットを受信デバイスに送信します。

SOUND は、選択したサウンドを受信デバイスに送信します。

PATTERN は、選択されたパターンを受信デバイスに送信します。

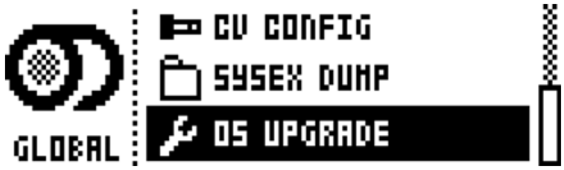
SONG は、選択したソングを受信デバイスに送信します。

GLOBAL は、選択したグローバル・スロットを受信デバイスに送信します。

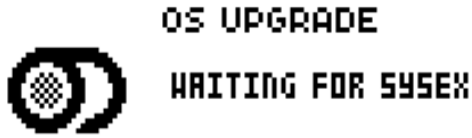
- **Analog Four が受信データへのリスニングを開始した後、送信デバイスからの SysEx 送信を開始します。**

OS アップグレード

このメニュー・オプションは、Analog Four の OS をアップグレードする際に使用されます。



[YES/SAVE] を押して Analog Four に受信 OS SysEx データのためのリスニングを開始させます。



転送を可能にするため、OS syx-file を送信するデバイスは、Analog Four の MIDI IN または USB ポートのいずれかに接続される必要があります。待機状態をキャンセルするには、[NO/RELOAD] を押します。

OS を受信するとプログレス・バーが表示されます。一度バーが一杯になったら、“ERASING FLASH” と “WRITING FLASH” のテキストが表示されます。成功した場合、マシンは自動的に再起動します。

- **OS syx file の送信を実行するとき、弊社の無料の SysEx ユーティリティ C6 を使用することをおすすめします。これは、Elektron のウェブサイトからダウンロードできます。**
- **Analog FourがMIDIポートを介してOSのアップグレードを受信している場合、転送速度を最大 10倍にするため、Elektron TM-1 USB MIDI インターフェースを使用してください。**

初期スタートアップ・メニュー

このメニューにアクセスするには、[FUNCTION] キーを押しながら電源を入れます。ここから、さまざまなタスクを実行することができます。さまざまな選択を行うには、対応する [TRIG] キーを押します。



テスト・モード

このモードに入るには、1 つ目の [TRIG] キーを押します。Analog Four で何か問題が発生して、ハードウェアの問題が原因である可能性が疑われる場合には、このセルフ・テストを実行してください。下図のようにエラーがないことが報告されるべきですが、もしそうでない場合は、Elektron のサポートまたは Analog Four を購入した販売店にご連絡ください。



エンプティ・リセット

この操作を実行するには、2 番目の [TRIG] キーを押します。すべてのキットやパターン、サウンド、ソングが消去されます。

ファクトリー・リセット

[TRIG 3] を押すと、Analog Four をファクトリー・リセットします。ファクトリー・リセットは、保存されたすべてのデータを消去し、すべてのファクトリー・キットやパターン、サウンド、ソングを復元します。

OS アップグレード

4 番目の [TRIG] キーを押して、このオプションを選択します。Analog Four は、受信 OS データを待つ待機段階に入ります。転送可能にするため、OS syx-file を送信するデバイスは、MIDI IN に接続される必要があります。EARLY START UP メニューにいるときは、USB MIDI 転送は不可能です。

Analog Four が OS を受信すると、プログレス・バーは、OS がどれだけ受信されているかを示します。アップグレードする場合、<TRIG> の LED が相次いで点灯します。この手順は、しばらく時間がかかりますのでご注意ください。転送が終了すると、“PREPARING FLASH” のメッセージが表示されます。“PREPARING FLASH” の表示後まもなく “UPDATING FLASH” が表示されます。このプロセスが完了したら OS が更新されます。

- **OS syx file の送信を実行するとき、弊社の無料の SysEx ユーティリティ C6 を使用することをおすすめします。これは、Elektron のウェブサイトからダウンロードできます。**
- **Analog FourがMIDIポートを介してOSのアップグレードを受信してい　る場合、転送速度を最大10倍にするため、Elektron TM-1 USB MIDI インターフェースを使用してください。**

テクニカル・インフォメーション

仕様

シーケンサ

4 シンセ・トラック
1 FX トラック
1 CV / Gate トラック
128 パターン
最大 64 ステップ・パー・パターン
128 サウンド
128 キット 16 ソング
6× アルペジエーター
個々のトラック・レングス
スウィングとスライド、アクセント機能
トラック・トランスポーズ
マイクロ・タイミング
パラメーター・ロック
ライブ・フレンドリー・パフォーマンス・モード
サウンド・パー・ステップ・チェンジ
インスタント・キットとパターン、トラック、ウンド・リロード
フル・リアルタイム・コントロール
フル MIDI サポート

センド・エフェクト

ワイドシフト・コーラス
サチュレーター・ディレイ
スーパーボイド・リバーブ

シンセ・ボイス（×4）

完全なアナログ信号経路
2× アナログ・オシレーター
すべてのウェーブフォーム上の可変波形
オシレーター AM とシンク・モード
2× サブ・オシレータ
1× ノイズ・ジェネレータ
1× 4 ポール・アナログ・ローパス・ラダーフィルター
1× 2 ポール・アナログ・マルチモード・フィルター
1× アナログオーバードライブ回路
フィルター・フィードバック
2× アサイナブル LFO
1× ビブラート専用 LFO
2× 波形専用 LFO
1× アンプ・エンベロープ
2× アサイナブル・エンベロープ
2× LFO フェード専用エンベロープ
1× ノイズフェード専用エンベロープ
1× ビブラート専用エンベロープ
1× オートベンド専用エンベロープ
3x 個々のエフェクト・センド

電気仕様

インピーダンス・バランス・オーディオ出力：

ヘッドホン 出力レベル：+19 dBu (55Ω)

メイン出力レベル：+19 dBu

出力インピーダンス：440 Ω アンバランス

アンバランス・オーディオ入力：

入力レベル：最大 +19 dBu

オーディオ入力インピーダンス：9 kΩ

デジタル S/N レシオ：102 dBFS (20-20.000 Hz)

ユニット消費電力：標準 8 W　最大 18 W

推奨電源：6 V DC, 3 A

ハードウェア

122x32 ピクセル・バックライト付き LCD
MIDI イン / アウト / スルー with DIN Sync out
2×1/4 " インピーダンス・バランス・オーディオ出力ジャック
2×1/4 " オーディオ入力ジャック
1×1/4 " ステレオ・ヘッドフォン・ジャック
2×1/4 " デュアル CV/Gate 出力
48 kHz、24-bit D/A と A/D コンバータ
Flash-EEPROM アップグレード可能 OS
電気的に絶縁された USB 2.0 ポート

物理仕様

スチール・ケーシング
寸法：W340xD176xH63mm（ノブとジャック、ゴム足を含む）
重さ：約 2.4 キロ

電源（PSU-3）電気仕様

入力電圧範囲：100-240V（43-60Hz）
入力コネクタ：IEC320-C8（2 ピン）
インラッシュ電流：最大 40 – 60 A
出力電圧：12 V DC
出力電流：最大 2.5 A
出力コネクター：5.5x2.5mm DC プラグ、センターでの電力

クレジットおよびコンタクト情報

クレジット

製品のデザイン・開発
Oscar Albinsson
Magnus Forsell
Anders Gärder
Jimmy Myhrman
Jon Mårtensson
David Revelj
Mattias Rickardsson
Daniel Troberg

追加デザイン
Thomas Ekelund

ファクトリー・デフォルト・サウンド・デザイン
Jimmy Myhrman
Jon Mårtensson
Daniel Troberg
Cenk Sayinli

ユーザー・マニュアル
Thomas Ekelund
Jon Mårtensson

コンタクト情報

ELEKTRON ウェブサイト
http://www.elektron.co.jp

配送先住所
〒 163-1030 東京都新宿区西新宿 3-7-1　新パークタワー N30 階

電話番号
03-5690-8883

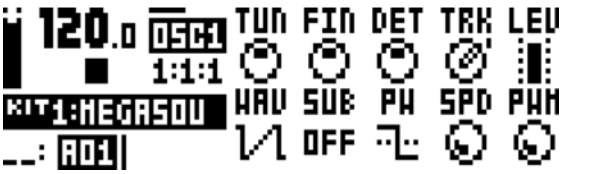
付録 A：シンセ・トラック・パラメーター

この付録では、シンセ・トラックのパラメーターを説明します。

オシレーター 1

OSC1 のページは、最初のオシレーターとそのサブオシレーター、加えてノイズ・ジェネレーターをコントロールします。

OSC1（ページ 1）



TUN （OSC1 コース・チューン）は、オシレーターのピッチを半音で設定します。これを押しながらノブを回すと 12 の値でオクターブを移動することができます。

FIN （OSC1 ファイン・チューン）は、オシレーターのピッチを微調整します。このノブは、エンコーダーとなっており、ピッチを連続して微調整することができます。FIN で操作される 1 つのターンごとに、TUN の半音が増加または減少します。

DET （OSC1 リニア・デチューン）は、一定のヘルツ（セント単位でピッチを調整する FIN とは異なります）によるオシレーターの周波数をオフセットします。このユニークな機能は、より大きな低音のデチューンを与え、非常に古く大きなアナログ・シンセサイザーをイメージさせるコーラスのような異なる種類のデチューンを可能にさせます。

TRK （OSC1 キー・トラック）は、オシレーター・ピッチがプレイするノートに追従するかを決定します。オフの場合、ピッチは一定で、いくつかのドラムやエフェクト・サウンドを扱いやすくすることが可能です。

LEV （OSC1 レベル）は、オシレーターのレベルをコントロールします。通常のレベルは 100 です。高いレベル設定で、サウンドを汚すことができます。低いレベルでは、より綺麗な信号がフィルターに送られ、これにより、フィルター・レゾナンスを目立たせることができます。異なる種類のサウンドを異なるレベルでお試しください。

WAV（OSC1 ウェーブ・フォーム）は、オシレーターの波形をソウ・トゥースやトランジスタ・パルス、パルス、トライアングルから設定します。2 つの外部入力（フィルターを通して外部音を送信する）のいずれかを選択したり、フィルター・フィードバックをアクティブにすることも可能です。ウェーブ・フォームの選択は、選択したウェーブ・フォームの波形に影響を与える PW パラメーターを変更することはありません。

SUB （OSC1 サブオシレーター）は、サブオシレーターの波形を設定したり、これをオフにできます。サブオシレーターのピッチは、オシレーターより 1 または 2 オクターブ下のピッチで設定されます。

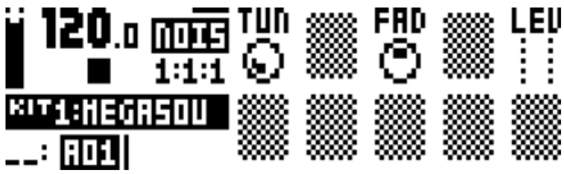
PW （OSC1 パルス・ワイズ）は、オシレーターの波形を設定します。中間位置（64）は、デフォルトの波形を示します。

ほとんどのシンセと異なり、WAV によって選択された 4 つのすべての波形は、可変することができます。

SPD （OSC1 PWM スピード）は、PW パラメーターで設定された波形の調整に使用することができるオシレーターの PWM LFO のスピードを設定します。

PWM （OSC1 PWM デプス）は、PW パラメーターで設定されたオシレーター周辺のパルス・ワイズ・モジュレーションの量をコントロールします。サウンドへ繊細なモジュレーションから急激なモジュレーションまでのあらゆる動きを追加するのに使用します。

Noise（ページ 2）



TUN（ノイズ・チューン）は、ノイズ・スペクトルのチューニングを設定します。

FAD （ノイズ・フェード）は、ノイズのフェードイン、フェードアウトをコントロールします。中間位置（0）は、一定のノイズ出力を与えます。+ の値は、フェードアウトを、- の値は、フェードインを与えます。

LEV（ノイズ・レベル）は、ノイズ・レベルの設定を行います。

オシレーター 2

OSC2 のページは、2 つ目のオシレーターとそれに付随するサブオシレーターをコントロールします。両方のオシレーターに影響する設定についても、ここに記載されています。

OSC 2（ページ 1）



TUN（OSC2 コース・チューン）は、オシレーターのピッチを半音で設定します。これを押しながらノブを回すと 12 の値でオクターブを移動することができます。

FIN（OSC2 ファイン・チューン）は、オシレーターのピッチを微調整します。このノブは、エンコーダーとなっており、ピッチを連続して微調整することができます。FIN で操作される 1 つのターンごとに、TUN の半音が増加または減少します。

DET（OSC2 リニア・デチューン）は、一定のヘルツ（セント単位でピッチを調整する FIN とは異なります）によるオシレーターの周波数をオフセットします。このユニークな機能は、より大きな低音のデチューンを与え、非常に古く大きなアナログ・シンセサイザーをイメージさせるコーラスのような異なる種類のデチューンを可能にさせます。

TRK（OSC2 キー・トラック）は、オシレーター・ピッチがプレイするノートに追従するかを決定します。オフの場合、ピッチは一定で、いくつかのドラムやエフェクト・サウンドを扱いやすくすることが可能です。

LEV（OSC2 レベル）は、オシレーターのレベルをコントロールします。通常のレベルは 100 です。高いレベル設定で、サウンドを汚すことができます。低いレベルでは、より綺麗な信号がフィルターに送られ、これにより、フィルター・レゾナンスを目立たせることができます。異なる種類のサウンドを異なるレベルでお試しください。

WAV （OSC2 ウェーブ・フォーム）は、オシレーターの波形をソウ・トゥースやトランジスタ・パルス、パルス、トライアングルから設定します。2 つの外部入力（フィルターを通して外部音を送信する）のいずれかを選択したり、フィルター・フィードバックをアクティブにすることも可能です。ウェーブ・フォームの選択は、選択したウェーブ・フォームの波形に影響を与える PW パラメーターを変更することはありません。

SUB（OSC2 サブオシレーター）は、サブオシレーターの波形を設定したり、これをオフにできます。サブオシレーターのピッチは、オシレーターより 1 または 2 オクターブ下のピッチで設定されます。

PW（OSC2 パルス・ワイズ）は、オシレーターの波形を設定します。中間位置（64）は、デフォルトの波形を示します。ほとんどのシンセと異なり、WAV によって選択された 4 つのすべての波形は、可変することができます。

SPD（OSC2PWM スピード）は、PW パラメーターで設定された波形の調整に使用することができるオシレーターの PWM LFO のスピードを設定します。

PWM （OSC2PWM デプス）は、PW パラメーターで設定されたオシレーター周辺のパルス・ワイズ・モジュレーションの量をコントロールします。サウンドへ繊細なモジュレーションから急激なモジュレーションまでのあらゆる動きを追加するのに使用します。

OSC（ページ 2）



AM1（Osc1 AM）は、オシレーター 1 のアンプ・モジュレーションを組み合わせ、その信号は、オシレーター 2 のパルス・ウェーブによってオン / オフ（乗算）を切り替えられます。これは、合計された周波数との新たなハーモニクスと 2 つのオシレーターのハーモニクスの周波数の違いを表しています。この結果は、リング・モジュレーションに関係しており、メタリック、ホロー、もしくは不協和音な音質を与えることができます。オシレーター 2 のウェーブ・フォームやパルス・ワイズもまた、そのオシレーターが聞こえなくとも、結果に影響を与えることに注意してください。

SMD （同期モード）は、Osc1 から Osc2、Osc2 から Osc1 へ、もしくは両方のオシレーターがお互いに特殊な方法でリセットするメタル・シンセの、いずれか 2 つのオシレーター間でのオシレーター・シンクを可能にします。

SNC（同期量）は、オシレーターシンクの量や " 硬さ "、つまり、同期されたオシレーターがどれだけ硬く同期オシレーターの周波数をロックするかを設定します。最大値は、いわゆる " ハード・シンク " として、最も強いシンク・サウンドを与えます。低い値では、同期オシレーターのサブハーモニクスをロックすることができる " ソフト・シンク " を与えます。ゼロの値では、全く同期を与えません。

BND （ベンド・デプス）は、オート・ベンド機能の量をコントロールします。設定値が高いほど、より多くのトリガされたノートのピッチがオフセットされます。サウンドは、そこからそのピッチに向かって正確に移り変わります。このパラメーターは、ドラム・サウンドまたはシンク・スイープにおいて特に役立ちます。オシレーター・シンクが（SMD）に追従している場合、その後に同期されたオシレーターのみがこれに従います。

SLI （ノート・スライド・タイム）は、NOTE SLIDE メニューで設定したノート・スライドのスライド・タイムをコントロールし、またオート・ベンド・タイム（BND）もコントロールします。

AM2 （OSC2 AM）は、オシレーター 2 のアンプ・モジュレーションに関連し、その信号がオシレーター 1 のパルス・ウェーブによってオン / オフ（乗算）を切り替えられることができます。上記の AM1 をご参照ください。

TRG（オシレーター・リトリガ）では、2 つのオシレーターがお互いの同位相でそれぞれのノートを開始させます。これは、構造的なインターフェースのおかげで、低音により強く安定したパンチを与えることができ、他の方法でサウンド・キャラクターを変更することもできます。

FAD（ビブラート・フェード）は、ビブラートのフェードインまたはフェードアウトをコントロールします。中間位置（0）は、一定のビブラートを与えます。+ の値はフェードアウトを、- の値はフェードインを与えます。

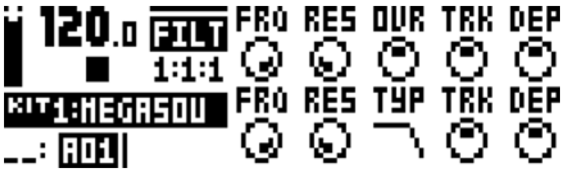
SPD（ビブラート・スピード）は、両方のオシレーターに影響を与えるビブラート LFO の周波数をコントロールします。

VIB （ビブラート・デプス）は、繊細な変化から激しいスイープまで、幅広いビブラートの量を設定します。

フィルター

FILTERS ページでは、2 つのトラック・フィルターに影響する設定が表示されます。

Filter



FRQ （フィルター 1 周波数）は、4 ポール・ローパス・トランジスタ・ラダー・フィルターであるフィルター 1 のカットオフ周波数をコントロールします。カットオフされた周波数は、カットオフ以下の周波数がフィルターを通過する間、ダンプされます。

RES （フィルター 1 レゾナンス）は、フィルター 1 のレゾナンスをコントロールします。増加したレゾナンスは、カットオフ周波数のスペクトルにおいてピークを設定します。フィルター 1 は、フィルター・エンベロープによりシャープに立ち上がったレゾナンスの下降が開始されると、特有のエレクトロニック・フィルター・サウンドが得られ、高周波数ではより強いレゾナンスを持ちます。

OVR（フィルター 1・オーバードライブ）は、信号パスにおいてディストーション効果を与えます。中間位置（0）において信号は、クリーンに保たれます。+ の値を大きくすると、フィルター 1 の後にクリッピング・ディストーションが得られます。- の値を大きくすると、信号を歪ませますが、より柔らかなオーバードライブが得られます。

TRK（フィルター 1 キー・トラック）は、カットオフ周波数に再生されるサウンドのピッチを追従させます。

DEP（フィルター 1 EnvF デプス）は、フィルター・エンベロープ EnvF からカットオフ周波数モジュレーションの量をコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、+ と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。ENV は、選択されたモジュレーション・ディストーションに関係なく、常にフィルター 1 に影響するので注意してください。

FRQ（フィルター 2 フリークエンシー）は、フィルター 1 とオーバードライブの後に位置する 2 ポール・マルチモード・フィルターであるフィルター 2 のカットオフ・フリークエンシーをコントロールします。

RES（フィルター 2 レゾナンス）は、フィルター 2 のレゾナンスをコントロールします。増加されたレゾナンスは、カットオフ・フリークエンシーでのスペクトルのピークを設定します。（ピークの代わりにノッチを持つバンド・ストップ・フィルターの種類を除きます。このノッチは、最小のレゾナンス設定で最も幅が広くなります。）フィルター 1 と比較すると、フィルター 2 は、全体のオーディオ・スペクトルにわたり、より均等なレゾナンス反応を持っています。

TYP（フィルター 2 タイプ）は、フィルター 2 のフィルターの種類を選択します。7 つの種類が用意されています：2 ポール・ローパス、1 ポール・ローパス、バンドパス、1 ポール・ハイパス、2 ポール・ハイパス、バンドストップ、ピーク。技術的には、それらすべてがレゾナンスの 2 ポール・フィルターですが、"1 ポール " タイプでは、シンプルな 1 ポール・フィルターのような平坦なスペクトルを持ち、イコライザとしても非常に役立ちます。

TRK（フィルター 2 キー・トラック）は、カットオフ・フリークエンシーに再生音のピッチを追従させます。

DEP（フィルター 2 EnvF デプス）は、フィルター・エンベロープ・EnvF からカットオフ・フリークエンシー・モジュレーションの量をコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、+ と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。ENV は、選択されたモジュレーション・ディストーションに関係なく、常にフィルター 2 に影響するので注意してください。

アンプ

AMP ページは、アンプ・エンベロープだけでなく、エフェクト・センドやパンニング、サウンドのボリュームの設定が含まれます。

AMP



ATK（EnvA アタック）は、トラックのアンプをコントロールする EnvA エンベロープのアタック・タイムをコントロールします。

DEC（EnvA ディケイ）は、EnvA エンベロープのディケイ・タイムをコントロールします。

SUS（EnvA サスティン）は、EnvA エンベロープのサスティン・レベルをコントロールします。

REL（EnvA リリース）は、EnvA エンベロープのリリース・タイムをコントロールします。

SHP（EnvA シェイプ）は、EnvA エンベロープの一般的なシェイプをコントロールします。いくつかの線形および指数形状が利用可能です。エンベロープの視覚的表現の左側にあるドットは、エンベロープがレベル・ゼロからリスタートすることを示します。他のケースでは、それがトリガされたとき、それが持っていたレベルからスタートします。

CHO（コーラス・センド）は、ワイドシフト・コーラス・エフェクトに送られるシンセ・トラック信号の量をコントロールします。

DEL（ディレイ センド）は、サチュレーター・ディレイ・エフェクトに送られるシンセ・トラック信号の量をコントロールします。

REV（リバーブ センド）は、スーパーボイド・リバーブ・エフェクトに送られるシンセ・トラック信号の量をコントロールします。

PAN（パン）は、ステレオ環境でのシンセ・トラックのサウンドを配置します。

VOL（ボリューム）は、サウンドのボリュームをコントロールします。このパラメーターは、全体的な LEV オーバー・オール・ゲイン・コントロールとは別のものです。

エンベロープ

ここでは、2 つのアサイナブル・エンベロープをコントロールするパラメーターが表示されます。最初のエンベロープ、ENVF は、2 つのフィルターのカットオフ・パラメーターにハードリンクされていますが、2 つの選択可能な行先を調節することができます。

ENVF（ページ 1）



ATK（EnvF アタック）は、EnvF エンベロープのアタック・タイムをコントロールします。

DEC（EnvF ディケイ）は、EnvF エンベロープのディケイ・タイムをコントロールします。

SUS（EnvF サスティン）は、EnvF エンベロープのサスティン・レベルをコントロールします。

REL（EnvF リリース）は、EnvF エンベロープのリリース・タイムをコントロールします。

SHP（EnvF シェイプ）は、EnvF エンベロープの一般的な形状をコントロールします。いくつかの線形および指数形状が利用可能です。エンベロープの視覚的表現の左側にあるドットは、エンベロープがレベルゼロからリスタートすることを示します。他のケースでは、それがトリガされたとき、それが持っていたレベルからスタートします。

LEN（EnvF ゲート・レングス）は、エンベロープを、トリガされた内容とは別のゲート・レングスに設定することが可能になります。

DST（EnvF デスティネーション A）は、EnvF エンベロープの 1 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（EnvF デプス A）は、エンベロープが最初の DST パラメーターによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、＋と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

DST（EnvF デスティネーション B）は、EnvF エンベロープの 2 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（EnvF デプス B）は、エンベロープが 2 番目の DST パラメーターによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、＋と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

ENV2 （ページ 2）



ATK（Env2 アタック）は、EnvF2 エンベロープのアタック・タイムをコントロールします。

DEC（Env2 ディケイ）は、Env2 エンベロープのディケイ・タイムをコントロールします。

SUS（Env2 サスティン）は、Env2 エンベロープのサスティン・レベルをコントロールします。

REL（Env2 リリース）は、Env2 エンベロープのリリース・タイムをコントロールします。

SHP（Env2 シェイプ）は、Env2 エンベロープの一般的な形状をコントロールします。いくつかの形状が利用可能です。

LEN（EnvF2 ゲートレングス）は、エンベロープを、トリガされた内容とは別のゲート・レングスに設定することが可能になります。

DST（Env2 デスティネーション A）は、EnvF エンベロープの 1 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（Env2 デプス A）は、エンベロープが最初の DST パラメーターによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、＋と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

DST（Env2 デスティネーション B）は、EnvF エンベロープの 2 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（Env2 デプス B）は、エンベロープが 2 番目の DST パラメーターによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、＋と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

LFO

2 トラックの LFO は、他のシンセ・トラック・パラメーターを調節するために使用することができます。

LFO1（1 ページ）



SPD（LFO1 スピード）は、LFO1 のスピードをコントロールします。これは、BPM に同期されます。ストレートなビートに同期する LFO1 を 16 や 32 または 64 の設定で試してください。値は、バイポーラで、つまり、LFO 形状は、- の値を使って逆再生することができることを意味します。

MUL（LFO1 マルチプライヤ）は、設定係数で SPD のパラメーターを乗算します。

FAD（LFO1 フェードイン / アウト）は、LFO のモジュレーションへフェードイン / アウトを提供します。＋の値は、フェードアウトを、- の値はフェードインの効果を与えます。中間位置（0）は、フェードイン / アウトは無効になります。

SPH（LFO1 スタート・フェイズ）は、ウェーブ・フォームにおいて、LFO1 がトリガされたときに開始される場所をコントロールします。

MOD（LFO1 トリガ・モード）は、ノートが弾かれたとき LFO1 がどのように反応するかをコントロールします。5 つの設定が存在します。

- FRE は、デフォルトのフリー・ランニング・モードです。このモードは、LFO1 を継続的に実行させるため、リスタートや停止はされません。
- TRG は、ノートが弾かれたとき、LFO1 をリスタートさせます。
- HLD は、LFO1 をバックグラウンドではフリー・ランニングさせますが、ノートが弾かれた場合、LFO1 アウトプット・レベルは、次のノートが弾かれるまで、ラッチされ、停止します。
- ONE は、ノートが弾かれたとき、LFO1 を最初からスタートさせ、1 サイクルのランニング後に停止します。これは、エンベロープと同様に機能させることができます。
- HLF は、ノートが弾かれたとき、LFO1 を最初からスタートさせ、半サイクルのランニング後に停止します。

WAV（LFO1 ウェーブ・フォーム）は、LFO1 のウェーブ・フォームをコントロールします。

DST（LFO1 デスティネーション）は、LFO1 の 1 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（LFO1 デプス A）は、LFO1 が 1 つ目の DST パラメータによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、＋と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

DST（LFO1 デスティネーション B）は、LFO1 の 2 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（LFO1 デプス B）は、LFO1 が 2 つ目の DST パラメータによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、＋と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

LFO2（ページ 2）



SPD（LFO2 スピード）は、LFO2 のスピードをコントロールします。これは、BPM に同期されます。ストレートなビートに同期する LFO2 を 16 や 32 または 64 の設定で試してください。値は、バイポーラで、つまり、LFO 形状は、- の値を使って逆再生することができることを意味します。

MUL（LFO2 マルチプライヤ）は、設定係数で SPD のパラメーターを乗算します。

FAD（LFO2 フェードイン / アウト）は、LFO のモジュレーションへフェードイン / アウトを提供します。＋の値は、フェードアウトを、- の値はフェードインの効果を与えます。中間位置（0）は、フェードイン / アウトは無効になります。

SPH（LFO2 スタート・フェイズ）は、ウェーブ・フォームにおいて、LFO2 がトリガされたときに開始される場所をコントロールします。

MOD（LFO2 トリガ・モード）は、ノートが弾かれたとき LFO2 がどのように反応するかをコントロールします。5 つの設定が存在します。

- FRE は、デフォルトのフリー・ランニング・モードです。このモードは、LFO2 を継続的に実行させるため、リスタートや停止はされません。
- TRG は、ノートが弾かれたとき、LFO2 をリスタートさせます。
- HLD は、LFO2 をバックグラウンドではフリー・ランニングさせますが、ノートが弾かれた場合、LFO1 アウトプット・レベルは、次のノートが弾かれるまで、ラッチされ、停止します。
- ONE は、ノートが弾かれたとき、LFO2 を最初からスタートさせ、1 サイクルのランニング後に停止します。これは、エンベロープと同様に機能させることができます。
- HLF は、ノートが弾かれたとき、LFO2 を最初からスタートさせ、半サイクルのランニング後に停止します。

WAV（LFO2 ウェーブ・フォーム）は、LFO2 のウェーブ・フォームをコントロールします。

DST（LFO2 デスティネーション）は、LFO2 の 1 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（LFO2 デプス A）は、LFO2 が 1 つ目の DST パラメータによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、＋と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

DST（LFO2 デスティネーション B）は、LFO2 の 2 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（LFO2 デプス B）は、LFO2 が 2 つ目の DST パラメータによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、＋と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

付録 B：FX トラック・パラメーター

この付録では、外部入力ページと 3 つのセンド・エフェクトのパラメーターについて説明されています。

外部入力

EXT IN ページは、2 つのオーディオ入力からメイン・ミキサーへの信号経路をコントロールします。これらの外部信号は、4 つのシンセ・トラックのようにエフェクトにルートされ、パンされます。

EXT



CHO（Ext L コーラス）は、ワイドシフト・コーラス・エフェクトに送られる左側の外部入力からの信号の量をコントロールします。

DEL（Ext L ディレイ）は、サチュレーター・ディレイ・エフェクトに送られる左側の外部入力からの信号の量をコントロールします。

REV（Ext L リバーブ）は、スーパーボイド・リバーブ・エフェクトに送られる左側の外部入力からの信号の量をコントロールします。

PAN（Ext L パン）は、ステレオ環境において左側の外部入力からの信号を配置します。ステレオ・ペアとしてオーディオ入力を使用するときは、この信号を左側にパンします。

VOL（Ext L ボリューム）は、左側の外部入力からの信号の音量を調整します。

CHO（Ext R コーラス）は、ワイド・シフト・コーラス・エフェクトに送られる右側の外部入力からの信号の量をコントロールします。

DEL（Ext R ディレイ）は、サチュレーター・ディレイ・エフェクトに送られる右側の外部入力からの信号の量をコントロールします。

REV（Ext R リバーブ）は、スーパーボイド・リバーブ・エフェクトに送られる右側の外部入力からの信号の量をコントロールします。

PAN（Ext R パン）は、ステレオ環境において右側の外部入力からの信号を配置します。ステレオペアとしてオーディオ入力を使用するときは、信号を右側にパンします。

VOL（Ext R ボリューム）は、右側の外部入力からの信号の音量を調整します。

ワイドシフト・コーラス

ワイドシフト・コーラスは、サウンドの幅を広げ、ステレオ・イメージを高めたり、サウンドに微妙な動きを追加するために使用することができます。

CHORUS



PRE（プリディレイ）は、ワイドシフト・コーラスのプリディレイ・タイムをコントロールします。

SPD（スピード）は、コーラス・タップのロー・フリークエンシー・モジュレーションのスピードを設定します。

DEP（デプス）は、コーラス・タップのモジュレーションのデプスをコントロールします。

WID（ウィドス）は、ワイドシフト・コーラスのステレオの幅をコントロールします。

FDB（フィードバック）は、コーラス・タップのフィードバックをコントロールします。

HPF（HP フィルター）は、入力信号のハイパス・フィルターをコントロールします。

LPF（LP フィルター）は、ディレイ・タップのローパス・フィルターをコントロールします。

DEL（ディレイ センド）は、サチュレータ・ディレイに送られるべきウェット・ワイドシフト・コーラス信号の量をコントロールします。

REV（リバーブ センド）は、スーパーボイドリバーブに送られるべきウェット・ワイドシフト・コーラス信号の量をコントロールします。

VOL（ミックス・ボリューム）は、ワイドシフト・コーラス信号のボリュームを調整します。

サチュレーター・ディレイ

サチュレーター・ディレイは、オーディオにエコーのようなエフェクトを追加します。このエフェクトの特別な機能のおかげで、ディレイ信号を繊細に暖かく、または激しく歪ませるためにも使用することができます。

DELAY



TIM（タイム）は、ディレイ・タイムを設定します。それは、現在の BPM に関連し、128 番目のノートとして測定されます。

X（ピンポン）は、ディレイ信号がステレオ環境でどのように動作するかをコントロールします。

- 0 は、ステレオ環境において、ディレイ信号を手動で位置づけることを可能にします。WID パラメーターは、配置をコントロールします。
- 1 は、左右のパンの位置を交互に行き来させるディレイ信号を作ります。WID パラメーターは、パンの量をコントロールします。

WID（ウィドス）は、ディレイ信号のステレオ幅や配置をコントロールします。

FDB（フィードバック）は、ディレイの入力にフィードバックされるディレイ出力の量をコントロールします。高いパラメーター設定では、無限または増幅ディレイを生み出すことが可能です。高いフィードバックは、非常に耳障りな信号につながる恐れがあり、OVR パラメーターは、さらにフィードバックを増幅させるので、ご注意ください。

HPF（HP フィルター）は、ディレイ・タップのハイパス・フィルターをコントロールします。

LPF（LP フィルタ）は、ディレイ・タップのローパス・フィルターをコントロールします。

OVR（オーバードライブ）は、オーバードライブするディレイ信号の量をコントロールします。設定を高くすると、ディレイのフィードバックに影響することにご注意ください。

REV（リバーブ・センド）は、スーパーボイド・リバーブに送られるサチュレーター・ディレイ信号の量をコントロールします。

VOL（ミックス・ボリューム）は、サチュレーター・ディレイ信号の音量を調整します。

スーパーボイド・リバーブ

スーパーボイド・リバーブは、ミックスにおいてサウンドの位置決めに最適です。それは、広大な場所から小さなスペースに至るまで何でもシミュレートすることができます。

REVERB



PRE（プリディレイ）は、スーパーボイド・リバーブのプリディレイ・タイムをコントロールします。

DEC（ディケイ・タイム）は、リバーブ信号のディケイ・タイムを設定し、基本的に部屋の大きさを設定します。

FRQ（シェルビング・フリークエンシー）は、シェルビング・フィルターのフリークエンシーをコントロールします。GAI パラメータと一緒に、リバーブ・サウンドを暗くしたり、選択したフリークエンシー以上のリバーブ信号をダンプするために使用することができます。

GAI（シェルビング・ゲイン）は、FRQ パラメーターによって設定されるシェルビング・フリークエンシー以上のリバーブ信号のダンプに影響を与えます。最高値では、トリブルはリバーブの中に含まれています。値を小さくすると徐々にダンプさせます。

HPF（HP フィルター）は、リバーブ入力のハイパス・フィルターをコントロールします。

LPF（LP フィルター）は、リバーブ入力のローパス・フィルターをコントロールします。

VOL（ミックス・ボリューム）は、スーパーボイド・リバーブ信号の音量を調整します。

FX LFO

FX LFO メニューは、FX トラック・パラメーターのモジュレート専用の 2 つの LFO で構成されています。

LFO1（1 ページ）



SPD（LFO1 スピード）は、LFO1 のスピードをコントロールします。これは、BPM に同期されます。ストレートなビートに LFO 1 を同期させる場合は、16 または 32、64 の設定を試してください。値は、バイポーラで、つまり、LFO の形状は、- の値を使用して、逆再生することができることを意味します。

MUL（LFO1 マルチプライヤ）は、SPD パラメーターを設定する係数で乗算します。

FAD（LFO1 フェードイン / アウト）は、LFO のモジュレーションへフェードイン / アウトを提供します。+ の値は、フェードアウトを、- の値はフェードインの効果を与えます。中間位置（0）は、フェードイン / アウトは無効になります。

SPHLFO1 スタート・フェイズ）は、ウェーブ・フォームにおいて、LFO1 がトリガされたときに開始される場所をコントロールします。

MOD（LFO1 トリガ・モード）は、ノートが弾かれたとき LFO1 がどのように反応するかをコントロールします。5 つの設定が存在します。

- FRE は、デフォルトのフリー・ランニング・モードです。このモードは、LFO1 を継続的に実行させるため、リスタートや停止はされません。
- TRG は、ノートが弾かれたとき、LFO1 をリスタートさせます。
- HLD は、LFO1 をバックグラウンドではフリー・ランニングさせますが、ノートが弾かれた場合、LFO1 アウトプット・レベルは、次のノートが弾かれるまで、ラッチされ、停止します。
- ONE は、ノートが弾かれたとき、LFO1 を最初からスタートさせ、1 サイクルのランニング後に停止します。これは、エンベロープと同様に機能させることができます。
- HLF は、ノートが弾かれたとき、LFO1 を最初からスタートさせ、半サイクルのランニング後に停止します。

WAV（LFO1 ウェーブ・フォーム）は、LFO1 のウェーブ・フォームをコントロールします。

DST（LFO1 デスティネーション）は、LFO1 の 1 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（LFO1 デプス A）は、LFO1 が 1 つ目の DST パラメータによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、+ と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

DST（LFO1 デスティネーション B）は、LFO1 の 2 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（LFO1 デプス B）は、LFO1 が 2 つ目の DST パラメータによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、+ と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

LFO2（1 ページ）



SPD（LFO2 スピード）は、LFO2 のスピードをコントロールします。これは、BPM に同期されます。ストレートなビートに同期する LFO2 を 16 や 32 または 64 の設定で試してください。値は、バイポーラで、つまり、LFO 形状は、- の値を使って逆再生することができることを意味します。

MUL（LFO2 マルチプライヤ）は、設定係数で SPD のパラメーターを乗算します。

FAD（LFO2 フェードイン / アウト）は、LFO のモジュレーションへフェードイン / アウトを提供します。+ の値は、フェードアウトを、- の値はフェードインの効果を与えます。中間位置（0）は、フェードイン / アウトは無効になります。

SPH（LFO2 スタート・フェイズ）は、ウェーブ・フォームにおいて、LFO2 がトリガされたときに開始される場所をコントロールします。

MOD（LFO2 トリガ・モード）は、ノートが弾かれたとき LFO2 がどのように反応するかをコントロールします。5 つの設定が存在します。

- FRE は、デフォルトのフリー・ランニング・モードです。このモードは、LFO2 を継続的に実行させるため、リスタートや停止はされません。
- TRG は、ノートが弾かれたとき、LFO2 をリスタートさせます。
- HLD は、LFO2 をバックグラウンドではフリー・ランニングさせますが、ノートが弾かれた場合、LFO1 アウトプット・レベルは、次のノートが弾かれるまで、ラッチされ、停止します。
- ONE は、ノートが弾かれたとき、LFO2 を最初からスタートさせ、1 サイクルのランニング後に停止します。これは、エンベロープと同様に機能させることができます。
- HLF は、ノートが弾かれたとき、LFO2 を最初からスタートさせ、半サイクルのランニング後に停止します。

WAV（LFO2 ウェーブ・フォーム）は、LFO2 のウェーブ・フォームをコントロールします。

DST（LFO2 デスティネーション）は、LFO2 の 1 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（LFO2 デプス A）は、LFO2 が 1 つ目の DST パラメータによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、+ と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

DST（LFO2 デスティネーション B）は、LFO2 の 2 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（LFO2 デプス B）は、LFO2 が 2 つ目の DST パラメータによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、+ と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

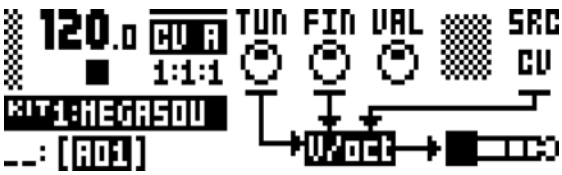
付録 C：CV トラック・パラメーター

この付録では、CV/Gate のトラック・パラメーターについて説明しています。

CV A-D

CV A-D ページには、2 つのデュアル CV/Gate 出力から送られる信号をコントロールします。CV CONFIG メニューで選択した CV のタイプに応じて、使用可能なパラメーターを変更します。

CV



TUN（コース・チューン）は、半音単位で CV のコース・チューニングを設定します。選択した CV のタイプが PITCH V/OCT または、PITCH HZ/V である場合に適用されます。

FIN（ファイン・チューン）は、CV のファイン・チューニングを設定します。選択した CV のタイプが PITCH V/OCT または、PITCH HZ/V である場合に適用されます。

VAL（値）は、CV の電圧レベルを設定します。選択した CV のタイプが VALUE LIN である場合に適用します。

SRC（ソース・トラック）は、CV 信号を送信されるノートのトラックを選択します。CV トラックと FX トラック、シンセ・トラック 1-4 は、ソースとして使用することができます。選択した CV のタイプが PITCH V/OCT や PITCH HZ/V または GATE である場合に適用されます。

LCD グラフィックスに関する注意：CV A-D パラメーター・ページのオーディオ・プラグ・グラフィックスが点滅し、オーディオ・ケーブル・プラグの先端またはリングのどちらが、アクティブな PARAMETER ページをコントロールする CV/Gate を送信するかを示します。

CV エンベロープ

ここでは、2 つのアサイナブル CV エンベロープをコントロールするパラメーターが表示されます。CV のエンベロープは、CV トラックに表示されたパラメーターをモジュレートすることができます。それらはまた、VALUE LIN などの CV チャンネルのタイプを設定することで、CV/Gate の出力に送ることができます。

ENV1（ページ 1）



ATK（ENV1 アタック）は、ENV1 エンベロープのアタック・タイムをコントロールします。

DEC（Env1 ディケイ）は、Env1 エンベロープのディケイ・タイムをコントロールします。

SUS（Env1 サスティン）は、Env1 エンベロープのサスティン・レベルをコントロールします。

REL（Env1 リリ　ース）は、Env1 エンベロープのリリース・タイムをコントロールします。

SHP（Env1 シェイプ）は、Env1 エンベロープの一般的なシェイプをコントロールします。いくつかの線形および指数形状が利用可能です。エンベロープの視覚的表現の左側にあるドットは、エンベロープがレベル・ゼロからリスタートすることを示します。他のケースでは、それがトリガされたとき、それが持っていたレベルからスタートします。

LEN（Env1 ゲート・レングス）は、エンベロープを、トリガされた内容とは別のゲート・レングスに設定することが可能になります。

DST（Env1 デスティネーション A）は、Env1 エンベロープの 1 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（Env1 デプス A）は、エンベロープが最初の DST パラメーターによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、＋と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

DST（Env1 デスティネーション B）は、Env1 エンベロープの 2 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（Env1 デプス B）は、エンベロープが 2 番目の DST パラメーターによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、＋と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

ENV2（2 ページ）



ATK（Env2 アタック）は、Env2 エンベロープのアタック・タイムをコントロールします。

DEC（Env2 ディケイ）は、Env2 エンベロープのディケイ・タイムをコントロールします。

SUS（Env2 サスティン）は、Env2 エンベロープのサスティン・レベルをコントロールします。

REL（Env2 リリース）は、Env2 エンベロープのリリース・タイムをコントロールします。

SHP（Env2 シェイプ）は、Env2 エンベロープの一般的な形状をコントロールします。いくつかの形状が利用可能です。

LEN（EnvF2 ゲートレングス）は、エンベロープを、トリガされた内容とは別のゲート・レングスに設定することが可能になります。

DST（Env2 デスティネーション A）は、EnvF エンベロープの 1 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（Env2 デプス A）は、エンベロープが最初の DST パラメーターによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、＋と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

DST（Env2 デスティネーション B）は、EnvF エンベロープの 2 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（Env2 デプス B）は、エンベロープが最初の DST パラメーターによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、＋と - の両方のモジュレーション・デプスはを使用可能です。

CV LFO

2 つの CV LFO は、他の CV トラック・パラメーターをモジュレートするために使用することができます。それらはまた、VALUE LIN などの CV チャネルのタイプを設定してから LFO に VAL パラメーターを調節させることによって、CV/Gate の出力に送ることができます。

LFO1（1 ページ）



SPD（LFO1 スピード）は、LFO1 のスピードをコントロールします。これは、BPM に同期されます。ストレートなビートに同期する LFO1 を 16 や 32 または 64 の設定で試してください。値は、バイポーラで、つまり、LFO 形状は、- の値を使って逆再生することができることを意味します。

MUL（LFO1 マルチプライヤ）は、設定係数で SPD のパラメーターを乗算します。

FAD（LFO1 フェードイン / アウト）は、LFO のモジュレーションへフェードイン / アウトを提供します。+ の値は、フェードアウトを、- の値はフェードインの効果を与えます。中間位置（0）は、フェードイン / アウトは無効になります。

SPH（LFO1 スタート・フェイズ）は、ウェーブ・フォームにおいて、LFO1 がトリガされたときに開始される場所をコントロールします。

MOD（LFO1 トリガ・モード）は、ノートが弾かれたとき LFO1 がどのように反応するかをコントロールします。5 つの設定が存在します。

- FRE は、デフォルトのフリー・ランニング・モードです。このモードは、LFO1 を継続的に実行させるため、リスタートや停止はされません。
- TRG は、ノートが弾かれたとき、LFO1 をリスタートさせます。
- HLD は、LFO1 をバックグラウンドではフリー・ランニングさせますが、ノートが弾かれた場合、LFO1 アウトプット・レベルは、次のノートが弾かれるまで、ラッチされ、停止します。
- ONE は、ノートが弾かれたとき、LFO1 を最初からスタートさせ、1 サイクルのランニング後に停止します。これは、エンベロープと同様に機能させることができます。
- HLF は、ノートが弾かれたとき、LFO1 を最初からスタートさせ、半サイクルのランニング後に停止します。

WAV（LFO1 ウェーブ・フォーム）は、LFO1 のウェーブ・フォームをコントロールします。

DST（LFO1 デスティネーション）は、LFO1 の 1 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（LFO1 デプス A）は、LFO1 が 1 つ目の DST パラメータによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、+ と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

DST（LFO1 デスティネーション B）は、LFO1 の 2 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（LFO1 デプス B）は、LFO1 が 2 つ目の DST パラメータによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、+ と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

LFO2（ページ 2）



SPD（LFO2 スピード）は、LFO2 のスピードをコントロールします。これは、BPM に同期されます。ストレートなビートに同期する LFO2 を 16 や 32 または 64 の設定で試してください。値は、バイポーラで、つまり、LFO 形状は、- の値を使って逆再生することができることを意味します。

MUL（LFO2 マルチプライヤ）は、設定係数で SPD のパラメーターを乗算します。

FAD（LFO2 フェードイン / アウト）は、LFO のモジュレーションへフェードイン / アウトを提供します。+ の値は、フェードアウトを、- の値はフェードインの効果を与えます。中間位置（0）は、フェードイン / アウトは無効になります。

SPH（LFO2 スタート・フェイズ）は、ウェーブ・フォームにおいて、LFO2 がトリガされたときに開始される場所をコントロールします。

MOD（LFO2 トリガ・モード）は、ノートが弾かれたとき LFO2 がどのように反応するかをコントロールします。5 つの設定が存在します。

- FRE は、デフォルトのフリー・ランニング・モードです。このモードは、LFO2 を継続的に実行させるため、リスタートや停止はされません。
- TRG は、ノートが弾かれたとき、LFO2 をリスタートさせます。
- HLD は、LFO2 をバックグラウンドではフリー・ランニングさせますが、ノートが弾かれた場合、LFO1 アウトプット・レベルは、次のノートが弾かれるまで、ラッチされ、停止します。
- ONE は、ノートが弾かれたとき、LFO2 を最初からスタートさせ、1 サイクルのランニング後に停止します。これは、エンベロープと同様に機能させることができます。
- HLF は、ノートが弾かれたとき、LFO2 を最初からスタートさせ、半サイクルのランニング後に停止します。

WAV（LFO2 ウェーブ・フォーム）は、LFO2 のウェーブ・フォームをコントロールします。

DST（LFO2 デスティネーション）は、LFO2 の 1 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（LFO2 デプス A）は、LFO2 が 1 つ目の DST パラメータによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、+ と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

DST（LFO2 デスティネーション B）は、LFO2 の 2 つ目のアサイナブル・デスティネーションを選択します。

DEP（LFO2 デプス B）は、LFO2 が 2 つ目の DST パラメータによって選択されたデスティネーションをどれだけ調節するかをコントロールします。ノブは、バイポーラで、つまり、+ と - の両方のモジュレーション・デプスを使用可能です。

付録 D: MIDI

この付録では、MIDI CC と NRPN のインプリメンテーションが含まれています。

パフォーマンス・パラメーター

次のメッセージは、すべてのトラックのパフォーマンス・パラメーターに影響を与えます。パラメーターをコントロール・ノブで調整する場合にも送信されます。

パフォーマンス NRPN					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
パフォーマンス・パラメーター A	A	0	0	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター B	B	0	1	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター C	C	0	2	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター D	D	0	3	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター E	E	0	4	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター F	F	0	5	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター G	G	0	6	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター H	H	0	7	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター I	I	0	8	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター J	J	0	9	0-127	-

パフォーマンス CC					
パラメーター	エンコーダー	CC MSB	CC LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
パフォーマンス・パラメーター A	A	3	-	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター B	B	4	-	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター C	C	8	-	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター D	D	9	-	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター E	E	11	-	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター F	F	64	-	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター G	G	65	-	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター H	H	66	-	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター I	I	67	-	0-127	-
パフォーマンス・パラメーター J	J	68	-	0-127	-

シンセ・トラック・パラメーター

次のメッセージは、シンセ・トラック・パラメーターに影響を与えます。パラメーターをコントロール・ノブで調整する場合にも送信されます。.

OSC 1 NRPN					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
ピッチ	A	1	0	0-127	0-127
	B	1		0-127	-
デチューン	C	1	2	0-127	-
キートラッキング	D	1	3	0-127	-
レベル	E	1	4	0-127	-
ウェーブフォーム	F	1	5	0-127	-
サブ・オシレーター	G	1	6	0-127	-
パルスワイズ	H	1	7	0-127	-
PWM スピード	I	1		0-127	-
PWM デプス	J	1	9	0-127	-

OSC 1 CC					
パラメーター	エンコーダー	CC MSB	CC LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
ピッチ	A	16	48	0-127	0-127
	B	-	-	0-127	-
デチューン	C	-	-	0-127	-
キートラッキング	D	-	-	0-127	-
レベル	E	69	-	0-127	-
ウェーブフォーム	F	70	-	0-127	-
サブ・オシレーター	G	71	-	0-127	-
パルスワイズ	H	72	-	0-127	-
PWM スピード	I	73	-	0-127	-
PWM デプス	J	74	-	0-127	-

ノイズ NRPN					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
ノイズ S&H	A	1	10	0-127	-
	B	1		0-127	-
ノイズ・フェード	C	1	12	0-127	-
	D	1		0-127	-
ノイズ・レベル	E	1	14	0-127	-
	F	1		0-127	-
	G	1		0-127	-
	H	1		0-127	-
	I	1		0-127	-
	J	1		0-127	-

ノイズ CC					
パラメーター	エンコーダー	CC MSB	CC LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
ノイズ S&H	A	75	-	0-127	-
	B	-	-	0-127	-
ノイズ・フェード	C	76	-	0-127	-
	D	-	-	0-127	-
ノイズ・レベル	E	77	-	0-127	-
	F	-	-	0-127	-
	G	-	-	0-127	-
	H	-	-	0-127	-
	I	-	-	0-127	-
	J	-	-	0-127	-

OSC 2 NRPN					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
ピッチ	A	1	20	0-127	0-127
	B	1		0-127	-
デチューン	C	1	22	0-127	-
キートラッキング	D	1	23	0-127	-
レベル	E	1	24	0-127	-
ウェーブフォーム	F	1	25	0-127	-
サブ・オシレーター	G	1	26	0-127	-
パルスワイズ	H	1	27	0-127	-
PWM スピード	I	1		0-127	-
PWM デプス	J	1	29	0-127	-

OSC 2 CC					
パラメーター	エンコーダー	CC MSB	CC LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
ピッチ	A	17	49	0-127	0-127
	B	-	-	0-127	-
デチューン	C	-	-	0-127	-
キートラッキング	D	-	-	0-127	-
レベル	E	78	-	0-127	-
ウェーブフォーム	F	79	-	0-127	-
サブ・オシレーター	G	80	-	0-127	-
パルスワイズ	H	81	-	0-127	-
PWM スピード	I	82	-	0-127	-
PWM デプス	J	83	-	0-127	-

OSC コモン NRPN					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
OSC1 AM	A	1	30	0-127	-
シンク・モード	B	1	31	0-127	-
シンク・アマウント	C	1	32	0-127	-
ベンド・アマウント	D	1	33	0-127	-
スライド・タイム	E	1	34	0-127	-
OSC2 AM	F	1	35	0-127	-
ノート・シンク	G	1	36	0-127	-
ビブラート・フェード	H	1	37	0-127	-
ビブラート・スピード	I	1	38	0-127	-
ビブラート・デプス	J	1	39	0-127	-

OSC コモン CC					
パラメーター	エンコーダー	CC MSB	CC LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
OSC1 AM	A	-	-	0-127	-
シンク・モード	B	-	-	0-127	-
シンク・アマウント	C	84	-	0-127	-
ベンド・アマウント	D	85	-	0-127	-
スライド・タイム	E	5	-	0-127	-
OSC2 AM	F	-	-	0-127	-
ノート・シンク	G	-	-	0-127	-
ビブラート・フェード	H	-	-	0-127	-
ビブラート・スピード	I	87	-	0-127	-
ビブラート・デプス	J	88	-	0-127	-

フィルター NRPN					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
フィルター 1 フリーケンシー	A	1	40	0-127	0-127
フィルター 1 レゾナンス	B	1	41	0-127	-
フィルター・オーバードライブ	C	1	42	0-127	-
フィルター 1 キートラッキング	D	1	43	0-127	-
フィルター 1 エンベロープ・アマウント	E	1	44	0-127	-
フィルター 2 フリーケンシー	F	1	45	0-127	0-127
フィルター 2 レゾナンス	G	1	46	0-127	-
フィルター 2 タイプ	H	1	47	0-127	-
フィルター 2 キートラッキング	I	1	48	0-127	-
フィルター 2 エンベロープ・アマウント	J	1	49	0-127	-

フィルター CC					
パラメーター	エンコーダー	CC MSB	CC LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
フィルター 1 フリーケンシー	A	18	50	0-127	0-127
フィルター 1 レゾナンス	B	89	-	0-127	-
フィルター・オーバードライブ	C	-	-	0-127	-
フィルター 1 キートラッキング	D	-	-	0-127	-
フィルター 1 エンベロープ・アマウント	E	102	-	0-127	-
フィルター 2 フリーケンシー	F	19	51	0-127	0-127
フィルター 2 レゾナンス	G	90	-	0-127	-
フィルター 2 タイプ	H	-	-	0-127	-
フィルター 2 キートラッキング	I	-	-	0-127	-
フィルター 2 エンベロープ・アマウント	J	103	-	0-127	-

AMP NRPN					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
EnvA アタック・タイム	A	1	50	0-127	-
EnvA ディケイ・タイム	B	1	51	0-127	-
EnvA サスティン・レベル	C	1	52	0-127	-
EnvA リリース・タイム	D	1	53	0-127	-
EnvA Env シェイプ	E	1	54	0-127	-
コーラス・センド・レベル	F	1	55	0-127	-
ディレイ・センド・レベル	G	1	56	0-127	-
リバーブ・センド・レベル	H	1	57	0-127	-
パン	I	1	58	0-127	-
ボリューム	J	1	59	0-127	-

AMP CC					
パラメーター	エンコーダー	CC MSB	CC LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
EnvA アタック・タイム	A	104	-	0-127	-
EnvA ディケイ・タイム	B	105	-	0-127	-
EnvA サスティン・レベル	C	106	-	0-127	-
EnvA リリース・タイム	D	107	-	0-127	-
EnvA Env シェイプ	E	-	-	0-127	-
コーラス・センド・レベル	F	91	-	0-127	-
ディレイ・センド・レベル	G	92	-	0-127	-
リバーブ・センド・レベル	H	93	-	0-127	-
パン	I	10	-	0-127	-
ボリューム	J	7	-	0-127	-

ENVF NRPN					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
EnvF アタック・タイム	A	1	60	0-127	-
EnvF ディケイ・タイム	B	1	61	0-127	-
EnvF サスティン・レベル	C	1	62	0-127	-
EnvF リリース・タイム	D	1	63	0-127	-
EnvF Env シェイプ	E	1	64	0-127	-
EnvF ゲート・レングス	F	1	65	0-127	-
EnvF ディスティネーション A	G	1	66	0-127	-
EnvF デプス A	H	1	67	0-127	0-127
EnvF ディスティネーション B	I	1	68	0-127	-
EnvF デプス B	J	1	69	0-127	0-127

ENVF CC					
パラメーター	エンコーダー	CC MSB	CC LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
EnvF アタック・タイム	A	108	-	0-127	-
EnvF ディケイ・タイム	B	109	-	0-127	-
EnvF サスティン・レベル	C	110	-	0-127	-
EnvF リリース・タイム	D	111	-	0-127	-
EnvF Env シェイプ	E	-	-	0-127	-
EnvF ゲート・レングス	F	-	-	0-127	-
EnvF ディスティネーション A	G	-	-	0-127	-
EnvF デプス A	H	20	52	0-127	0-127
EnvF ディスティネーション B	I	-	-	0-127	-
EnvF デプス B	J	21	53	0-127	0-127

ENV2 NRPN					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
Env2 アタック・タイム	A	1	70	0-127	-
Env2 ディケイ・タイム	B	1	71	0-127	-
Env2 サスティン・レベル	C	1	72	0-127	-
Env2 リリース・タイム	D	1	73	0-127	-
Env2 Env シェイプ	E	1	74	0-127	-
Env2 ゲート・レングス	F	1	75	0-127	-
Env2 ディスティネーション A	G	1	76	0-127	-
Env2 デプス A	H	1	77	0-127	0-127
Env2 ディスティネーション B	I	1	78	0-127	-
Env2 デプス B	J	1	79	0-127	0-127

ENV2 CC					
パラメーター	エンコーダー	CC MSB	CC LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
Env2 アタック・タイム	A	112	-	0-127	-
Env2 ディケイ・タイム	B	113	-	0-127	-
Env2 サスティン・レベル	C	114	-	0-127	-
Env2 リリース・タイム	D	115	-	0-127	-
Env2 Env シェイプ	E	-	-	0-127	-
Env2 ゲート・レングス	F	-	-	0-127	-
Env2 ディスティネーション A	G	-	-	0-127	-
Env2 デプス A	H	22	54	0-127	0-127
Env2 ディスティネーション B	I	-	-	0-127	-
Env2 デプス B	J	23	55	0-127	0-127

LFO1 NRPN					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
LFO1 スピード	A	1	80	0-127	-
LFO1 スピード・マルチプライヤ	B	1	81	0-127	-
LFO1 フェード	C	1	82	0-127	-
LFO1 スタート・フェーズ	D	1	83	0-127	-
LFO1 モード	E	1	84	0-127	-
LFO1 ウェーブフォーム	F	1	85	0-127	-
LFO1 ディスティネーション A	G	1	86	0-127	-
LFO1 デプス A	H	1	87	0-127	0-127
LFO1 ディスティネーション B	I	1	88	0-127	-
LFO1 デプス B	J	1	89	0-127	0-127

LFO1 CC					
パラメーター	エンコーダー	CC MSB	CC LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
LFO1 スピード	A	116	-	0-127	-
LFO1 スピード・マルチプライヤ	B	117	-	0-127	-
LFO1 フェード	C	-	-	0-127	-
LFO1 スタート・フェーズ	D	-	-	0-127	-
LFO1 モード	E	-	-	0-127	-
LFO1 ウェーブフォーム	F	-	-	0-127	-
LFO1 ディスティネーション A	G	-	-	0-127	-
LFO1 デプス A	H	24	56	0-127	0-127
LFO1 ディスティネーション B	I	-	-	0-127	-
LFO1 デプス B	J	25	57	0-127	0-127

LFO2 NRPN					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
LFO2 スピード	A	1	90	0-127	-
LFO2 スピード・マルチプライヤ	B	1	91	0-127	-
LFO2 フェード	C	1	92	0-127	-
LFO2 スタート・フェーズ	D	1	93	0-127	-
LFO2 モード	E	1	94	0-127	-
LFO2 ウェーブフォーム	F	1	95	0-127	-
LFO2 ディスティネーション A	G	1	96	0-127	-
LFO2 デプス A	H	1	97	0-127	0-127
LFO2 ディスティネーション B	I	1	98	0-127	-
LFO2 デプス B	J	1	99	0-127	0-127

LFO2 CC					
パラメーター	エンコーダー	CC MSB	CC LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
LFO2 スピード	A	118	-	0-127	-
LFO2 スピード・マルチプライヤ	B	119	-	0-127	-
LFO2 フェード	C	-	-	0-127	-
LFO2 スタート・フェーズ	D	-	-	0-127	-
LFO2 モード	E	-	-	0-127	-
LFO2 ウェーブフォーム	F	-	-	0-127	-
LFO2 ディスティネーション A	G	-	-	0-127	-
LFO2 デプス A	H	26	58	0-127	0-127
LFO2 ディスティネーション B	I	-	-	0-127	-
LFO2 デプス B	J	27	59	0-127	0-127

FX トラック・パラメーター

次のメッセージは、FX トラック・パラメータに影響を与えます。パラメーターをコントロール・ノブで調整する場合にも送信されます。

EXT IN					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
Ch1 コーラス・センド	A	2	0	0-127	0-127
Ch1 ディレイ・センド	B	2	1	0-127	-
Ch1 リバーブ・センド	C	2	2	0-127	-
Ch1 パン	D	2	3	0-127	-
Ch1 レベル	E	2	4	0-127	-
Ch2 コーラス・センド	F	2	5	0-127	-
Ch2 ディレイ・センド	G	2	6	0-127	-
Ch2 リバーブ・センド	H	2	7	0-127	-
Ch2 パン	I	2	8	0-127	-
Ch2 レベル	J	2	9	0-127	-

コーラス					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
プリディレイ	A	2	40	0-127	0-127
スピード	B	2	41	0-127	-
デプス	C	2	42	0-127	-
ウィドゥス	D	2	43	0-127	-
フィードバック	E	2	44	0-127	-
HP フィルター	F	2	45	0-127	-
LP フィルター	G	2	46	0-127	-
ディレイ・センド	H	2	47	0-127	-
リバーブ・センド	I	2	48	0-127	-
センド・レベル	J	2	49	0-127	-

ディレイ					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
タイム	A	2	50	0-127	0-127
モード	B	2	51	0-127	-
	C	2	52	0-127	-
ウィドゥス	D	2	53	0-127	-
フィードバック	E	2	54	0-127	-
HP フィルター	F	2	55	0-127	-
LP フィルター	G	2	56	0-127	-
オーバードライブ	H	2	57	0-127	-
リバーブ・センド	I	2	58	0-127	-
センド・レベル	J	2	59	0-127	-

リバーブ					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
プリディレイ	A	2	60	0-127	0-127
ディケイ・タイム	B	2	61	0-127	-
シェルビング Freq	C	2	62	0-127	-
シェルビング・ゲイン	D	2	63	0-127	-
	E	2	64	0-127	-
HP フィルター	F	2	65	0-127	-
LP フィルター	G	2	66	0-127	-
	H	2	67	0-127	-
	I	2	68	0-127	-
センド・レベル	J	2	69	0-127	-

LFO1					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
LFO1 スピード	A	2	80	0-127	-
LFO1 スピード・マルチプライヤ	B	2	81	0-127	-
LFO1 フェード	C	2	82	0-127	-
LFO1 スタート・フェーズ	D	2	83	0-127	-
LFO1 モード	E	2	84	0-127	-
LFO1 ウェーブフォーム	F	2	85	0-127	-
LFO1 ディストーション 1	G	2	86	0-127	-
LFO1 デプス 1	H	2	87	0-127	-
LFO1 ディスティネーション 2	I	2	88	0-127	-
LFO1 デプス 2	J	2	89	0-127	-

LFO2					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
LFO2 スピード	A	2	90	0-127	-
LFO2 スピード・マルチプライヤ	B	2	91	0-127	-
LFO2 フェード	C	2	92	0-127	-
LFO2 スタート・フェーズ	D	2	93	0-127	-
LFO2 モード	E	2	94	0-127	-
LFO2 ウェーブフォーム	F	2	95	0-127	-
LFO2 ディストーション 1	G	2	96	0-127	-
LFO2 デプス 1	H	2	97	0-127	-
LFO2 ディスティネーション 2	I	2	98	0-127	-
LFO2 デプス 2	J	2	99	0-127	-

CV トラック・パラメーター

次のメッセージは、CV トラック・パラメーターに影響を与えます。パラメーターをコントロール・ノブで調整する場合にも送信されます。

CV A					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
CV A チューン	A	3	0	0-127	0-127
	B	3		0-127	-
CV A バリュー	C	3	2	0-127	-
CV A クロック	D	3	3	0-127	-
CV A ソース	E	3	4	0-127	-
	F	3		0-127	-
	G	3		0-127	-
	H	3		0-127	-
	I	3		0-127	-
	J	3		0-127	-

CV B					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
CV B チューン	A	3	20	0-127	0-127
	B	3		0-127	-
CV B バリュー	C	3	22	0-127	-
CV B クロック	D	3	23	0-127	-
CV B ソース	E	3	24	0-127	-
	F	3		0-127	-
	G	3		0-127	-
	H	3		0-127	-
	I	3		0-127	-
	J	3		0-127	-

CV C					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
CV C チューン	A	3	40	0-127	0-127
	B	3		0-127	-
CV C バリュー	C	3	42	0-127	-
CV C クロック	D	3	43	0-127	-
CV C ソース	E	3	44	0-127	-
	F	3		0-127	-
	G	3		0-127	-
	H	3		0-127	-
	I	3		0-127	-
	J	3		0-127	-

CV D					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
CV D チューン	A	3	50	0-127	0-127
	B	3		0-127	-
CV D バリュー	C	3	52	0-127	-
CV D クロック	D	3	53	0-127	-
CV D ソース	E	3	54	0-127	-
	F	3		0-127	-
	G	3		0-127	-
	H	3		0-127	-
	I	3		0-127	-
	J	3		0-127	-

ENV1					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
Env1 アタック・タイム	A	3	60	0-127	-
Env1 ディケイ・タイム	B	3	61	0-127	-
Env1 サスティン・レベル	C	3	62	0-127	-
Env1 リリース・タイム	D	3	63	0-127	-
Env1 Env シェープ	E	3	64	0-127	-
Env1 ゲート・レングス	F	3	65	0-127	-
Env1 ディスティネーション 1	G	3	66	0-127	-
Env1 デプス 1	H	3	67	0-127	-
Env1 ディスティネーション 2	I	3	68	0-127	-
Env1 デプス 2	J	3	69	0-127	-

ENV2					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
Env2 アタック・タイム	A	3	70	0-127	-
Env2 ディケイ・タイム	B	3	71	0-127	-
Env2 サスティン・レベル	C	3	72	0-127	-
Env2 リリース・タイム	D	3	73	0-127	-
Env2 Env シェープ	E	3	74	0-127	-
Env2 ゲート・レングス	F	3	75	0-127	-
Env2 ディスティネーション 1	G	3	76	0-127	-
Env2 デプス 1	H	3	77	0-127	-
Env2 ディスティネーション 2	I	3	78	0-127	-
Env2 デプス 2	J	3	79	0-127	-

LFO1					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
LFO1 スピード	A	3	80	0-127	-
LFO1 スピード・マルチプライヤ	B	3	81	0-127	-
LFO1 フェード	C	3	82	0-127	-
LFO1 スタート・フェーズ	D	3	83	0-127	-
LFO1 モード	E	3	84	0-127	-
LFO1 ウェーブフォーム	F	3	85	0-127	-
LFO1 ディストーション 1	G	3	86	0-127	-
LFO1 デプス 1	H	3	87	0-127	-
LFO1 ディスティネーション 2	I	3	88	0-127	-
LFO1 デプス 2	J	3	89	0-127	-

LFO2					
パラメーター	エンコーダー	NRPN MSB	NRPN LSB	データ・レンジ MSB	データ・レンジ LSB
LFO2 スピード	A	3	90	0-127	-
LFO2 スピード・マルチプライヤ	B	3	91	0-127	-
LFO2 フェード	C	3	92	0-127	-
LFO2 スタート・フェーズ	D	3	93	0-127	-
LFO2 モード	E	3	94	0-127	-
LFO2 ウェーブフォーム	F	3	95	0-127	-
LFO2 ディストーション 1	G	3	96	0-127	-
LFO2 デプス 1	H	3	97	0-127	-
LFO2 ディスティネーション 2	I	3	98	0-127	-
LFO2 デプス 2	J	3	99	0-127	-

INDEX

elektron